

平成31年第1回那須烏山市議会3月定例会（第5日）

平成31年3月5日（火）

開議 午前10時00分

散会 午後 4時37分

◎出席議員（17名）

| | | | |
|-----|--------|-----|------|
| 1番 | 青木敏久 | 2番 | 興野一美 |
| 3番 | 堀江清一 | 4番 | 荒井浩二 |
| 5番 | 福田長弘 | 6番 | 村上進一 |
| 7番 | 矢板清枝 | 8番 | 滝口貴史 |
| 9番 | 小堀道和 | 10番 | 相馬正典 |
| 11番 | 田島信二 | 12番 | 渋谷由放 |
| 13番 | 久保居光一郎 | 14番 | 沼田邦彦 |
| 15番 | 中山五男 | 16番 | 高田悦男 |
| 17番 | 平塚英教 | | |

◎欠席議員（なし）

◎説明のため出席した者の職氏名

| | |
|---------------|-------|
| 市長 | 川俣純子 |
| 副市長 | 國井豊 |
| 教育長 | 田代和義 |
| 会計管理者兼会計課長 | 滝田勝幸 |
| 総合政策課長 | 石川浩 |
| まちづくり課長 | 佐藤博樹 |
| 総務課長 | 福田守 |
| 税務課長 | 水上和明 |
| 市民課長 | 佐藤加代子 |
| 福祉事務所長兼健康福祉課長 | 稲葉節子 |
| こども課長 | 神野久志 |
| 農政課長 | 菊池義夫 |
| 商工観光課長 | 小原沢一幸 |
| 環境課長 | 小林貞大 |

都市建設課長
上下水道課長
学校教育課長
生涯学習課長
文化振興課長

小田倉 浩
佐藤 光明
岩附 利克
柳田 啓之
糸井 美智子

◎事務局職員出席者

事務局長
書記
書記

大谷 啓夫
菊地 静夫
藤田 真弓

○議事日程

日程 第 1 (議案第1号～第8号) 平成31年度那須烏山市一般会計・特別会計・
水道事業会計予算について ※質疑～委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

[午前10時00分開議]

○議長（沼田邦彦） おはようございます。

傍聴席の皆さま方には早朝より連日お集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

ただいま出席している議員は17名全員です。定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

◎日程第1 （議案第1号～第8号）平成31年度那須烏山市一般会計・特別会計
・水道事業会計予算について ※質疑～委員会付託

○議長（沼田邦彦） 日程第1 議案第1号から議案第8号までの平成31年度那須烏山市一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、熊田診療所特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、介護保険特別会計予算、農業集落排水事業特別会計予算、下水道事業特別会計予算、水道事業会計予算の平成31年度当初予算8議案を一括して議題といたします。

本件については、去る2月26日の本会議において提案理由の説明が終了しております。

直ちに質疑に入りますが、所管の委員会に関する事項は、委員会審査において質疑されるようお願いいたします。

また、議会運営に関する申し合わせにより、質疑の持ち時間を答弁を含めて30分以内としております。30分を超えましたら終了を求めますので、御了解願います。

質疑、答弁は簡潔、明瞭にされるよう、この際申し添えます。

それでは、質疑に入ります。

1番青木議員。

○1番（青木敏久） おはようございます。1番青木でございます。早速通告書に基づきまして御質問させていただきます。

予算書41ページ、財産管理費について。前年度より増額の理由についてお尋ねいたします。前年度3,293万2,082円、本予算3,480万円でございます。

続きまして予算書43ページ。烏山高部線運行管理費、前年度より増額の理由についてお伺いいたします。前年度483万9,809円、本予算596万2,000円。

続きまして、予算書同じく43ページ。市塙黒田烏山線運行管理費、前年度より増額の理由についてでございます。前年度486万5,145円、本予算596万9,000円についてでございます。

続きまして、予算書45ページ。民間賃貸住宅家賃補助事業についてでございます。転入若者夫婦世帯家賃応援補助金、これについて、施行期間中に子が誕生した場合に、加算として1,000円の増額が認められるかどうかその内容についてお伺いいたします。

続きまして予算書45ページ。定住促進対策事業費、地方創生移住支援金の概要についてお尋ね申し上げます。

続きまして、予算書69ページ。農林水産特産物開発事業費、なすからブランド6次産業化推進事業補助金の概要について、50万円をどんな推進にお使いになるか御説明願います。

続きまして予算書71ページ。林業総務費。前年度より大幅増の理由についてお尋ねを申し上げます。前年度6万7,600円、本予算253万6,000円です。

同じく予算書71ページ、林業振興費。前年度より大幅増の理由についてお尋ね申し上げます。前年度78万3,360円、本予算140万9,000円でございます。

同じく71ページ。森林・山村多面的機能発揮対策事業費。前年度より大幅増の理由についてお尋ねします。前年度16万8,000円、本予算55万4,000円についてお尋ねします。

同じく71ページ、鳥獣被害対策事業費。前年度より今度は減額の理由についてお尋ねします。前年度641万1,710円、本予算588万8,000円。

予算書83ページ、災害対策費。前年度より減額の理由についてお尋ねします。前年度255万2,210円、本予算223万9,000円でございます。

予算書28ページ、繰入金についてお尋ねします。基金からの繰入について、今後の方針を問うものでございます。前年度2億9,639万円、本予算2億9,644万6,000円。

以上お尋ね申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） それではこの中で総務課関連の2点ほど説明をさせていただきたいと思っております。まずは予算書41ページの財産管理費増の理由でございますが、こちらにつきましては、公用車の燃料費の単価のアップ、それと電子入札のコアシステムのサポートが有償になるものですから、その予算措置をしたもの。それと、大きなもの、公用車のリース料と物品のレンタル料の消費税のアップに伴う増額でございます。

それと、予算書83ページの災害対策費の減額の理由でございますが、これは平成30年度ハザードマップの作成業務委託を計上しておりましたが、平成31年度についてはこちらのほうがなくなったものでございます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 私からは43ページの2本、烏山高部線運行管理費、市塙

黒田烏山線運行管理費の増額の理由でございますが、まず、議員のほうから提示のあった金額につきましては運行委託料だと思いますが、それに関しましては10月からの消費税増を見込んだ金額の増となっております。ただし、その他のものにつきましては、修繕料として従来30万円の予算措置をしていたものですが、今後修繕が見込まれることから50万円に増額していることから、烏山高部線、市塙黒田烏山線それぞれが値上がりをするというような状況となっております。それが主な理由となっております。

続きまして、45ページ、民間賃貸住宅家賃補助事業。こちらでございますが、こちらにつきましては、平成28年度から実施しておりました若者家賃の応援の補助金でございますが、見直しをかけて、転入者に対する若者夫婦世帯の家賃応援補助金ということで制度を変えるものでございますが、先ほどの子が誕生した場合の加算についてでございます。

例を申し上げます。例えば平成31年4月に交付申請があったとします。そうしますと、平成31年5月から平成32年4月までの1年間が交付期間となります。平成31年5月に子が誕生した場合につきましては、平成31年6月から1,000円を加算して、平成32年の4月まで11ヶ月間が交付されるというような状況になってございます。

続きまして、45ページ、定住促進対策事業費、地方創生移住支援金でございます。これにつきましては、今年度、国の地方創生推進交付金を活用した栃木県内として一括して行う事業となっております。これにつきましては、東京23区にお住まいの方、または東京23区に千葉県、埼玉県、神奈川県から通勤している方が、那須烏山市に移住目的でこちらに移住し、なおかつ、那須烏山市の企業に就職した場合、この就職でございますが、これにはどの就職でもいいということではなく、中小企業として栃木県が認定をするマッチングサイトというようなところに掲載された事業所になりますが、そこに就職した場合は最大で100万円が交付されるものでございます。これにつきましては、国が50万円、県が25万円、市が25万円の計100万円が支給されるものでございます。これを那須烏山市におきましては、2名を予定していることから、200万円の計上をしているところでございます。

以上であります。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 69ページの農林水産特産物開発事業についてお答えいたします。この事業は今年度からの新規としまして、平成31年度から3カ年事業として行います。なすからブランドとして認証を受けました農林水産物を主な原材料としまして使用した加工品の商品開発や販路拡大等に対しての補助金を交付するものでございます。

補助額は事業に要する経費の2分の1以内、10万円を限度といたします。現在、認証を受けております農林水産物であります。中山かぼちゃ、山あげ牛、山あげ米、パッションフル

ーツとまだ4品でございます。

今後農政課といたしまして、認証を考えております品目としましては八溝そば、みなみちゃんかぼちゃ、にっこり梨、カラス大根、梅、国見のミカンなどこれまでも特産開発事業に取り組んでまいりました物を初めとして、最近では新聞にも載りましたけれども、ポポーという果物も考えております。

まずはなすからブランド認証を受けられるように、積極的に農家等に推進してまいりたいと考えております。

次に、71ページの林業総務費でございます。平成31年度につきましては、臨時職員の1名分の賃金等を計上いたしましたので、増額になったものでございます。

次の林業振興費でございます。これは、予算の概要書にもございますが、平成30年度の当初と比較いたしますと、平成30年度は515万6,000円の当初予算に対しまして、今年度140万9,000円でございますので、逆に374万7,000円の当初比較では減額となります。減額の理由といたしましては、平成30年度森林環境譲与税の導入を見通して、林地台帳の作成業務委託費を計上いたしました。この分で約300万円ほど計上いたしましたので、平成31年度は逆に減ということで御理解いただきたいと思っております。

次に、森林・山村多面的機能発揮対策事業費でございます。前年度よりの大幅増ということでございます。当該事業は平成29年度から平成33年度までの5カ年事業として実施いたします。平成30年度は該当箇所、要望等もございませんでしたので、実績はありません。平成31年度につきましては、2箇所の要望が出ておりますので、負担金として55万4,000円を予算措置しております。この事業は単年事業として実施するものでありまして、県民税で実施いたしました地区等を救う意味でこの事業が創設されております。ただし、要件がございまして、当該事業の事業主体となれる団体は、地域住民や森林所有者が協力して実施する里山林の保全を支援するということでの取り組み事業でございます。

国が4分の3、県が8分の1、市が8分の1という負担割合でございまして、市の8分の1の負担については、10分の7が特別交付税措置されるという内容でございます。

最後に、鳥獣被害対策事業費でございます。前年度より減額の理由でございまして、昨年度から9万4,000円の減ということでありますが、全体的に前年度の実績を踏まえてそれを予算措置に反映して計上したものでございますので、御理解いただきたいと思っております。

主な予算の内容につきましては、実施体への報酬、イノシシ捕獲報奨金、猟友会への業務委託、電気柵の補助金等が内容でございます。

以上になります。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 最後になります。予算書28ページの繰入金でございます。全体的な内容としまして、今後の財政運営や各条例で定められております基金の目的に沿って、積立または取り崩しをしている状況でございます。具体的に予算書のほうで申し上げますと、財政調整基金につきましては、言葉どおり、財政財源の調整として2億1,000万円を取り崩してございます。

市有施設整備基金繰入金の5,000万円につきましては、老人憩の家解体、龍門ふるさと民芸館、道路整備等について5,000万円を崩してございます。ふるさと応援基金につきましては、6事業につきまして寄付等に沿った充当をしてございます。地域福祉基金につきましては、700万円、障がい者福祉タクシー及び高齢者福祉タクシー等の事業費に充当してございます。富士見台工業団地整備管理基金につきましては、工業団地の水質検査また、道路照明灯の維持費に充当してございます。奨学金につきましては、奨学金そのままでございます。学校施設整備基金につきまして、1,200万円につきましては、烏山小学校のトイレの洋式化工事に1,000万円。南那須中学校の放送設備の整備に200万円ということで1,200万円を取り崩してございます。なお、全体的には今後の財源等の縮減が見込まれるところから、なるべくは残高を残したいというふうには思っております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 1番青木議員。

○1番（青木敏久） 再質問させていただきます。まず、地方創生移住支援金についてですが、これについては2名分で1名につき100万円という御説明がございましたけれども、資金の使途等については何か100万円の中であるかどうかを伺うことと、繰入金についてはこれから選択と集中ということを方針として掲げておりますので、選択される中で老朽化した建物の解体等を見込まれるので、これからも基金の取り崩しは進んでいく方向かどうか2点についてお伺いをいたします。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、移住対策の件でございますが、これにつきましては、目的として東京一極集中の是正及び地方の担い手不足解消のため、U・I・Jターンによる企業就業者の創出を図るとというのがまず前提に目的としてございます。したがって、東京の方面から田舎に来ることによって、引越し費用とか多大な費用がかかることから、その一部を支援するものでございますので、それにかかった費用についてどうのこうのではなく、先ほど言ったように那須烏山市に移住をして、那須烏山市のマッチングサイトに合致する企業に就職した場合は国、県、市あわせて100万円を交付するという内容でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 基金の繰入につきましては、議員おっしゃるような感じになるかと思えます。財源的にはどうしても基金を活用せざるを得ないものと理解しております。

○議長（沼田邦彦） 1番青木議員。

○1番（青木敏久） 以上了解いたしました。ありがとうございます。

○議長（沼田邦彦） 2番興野議員。

○2番（興野一美） 2番興野と申します。通告書に出ていない質問も、2件ぐらいありますので、よろしくをお願いします。

まず予算書の75ページ、観光協会支援事業費。事業費が1,190万円で136万4,000円増額の内容を伺います。

同じく75ページ、山あげ会館と龍門ふるさと民芸館運営費。山あげ運営費が1,782万円。龍門ふるさと民芸館運営費が874万4,000円。これは観光協会が指定管理者となっていると思うのですけれども、かかりすぎではないかと思いますのでその点について伺います。

次に、予算書の77ページ、ふれあいの道づくりです。平成29年度の当初予算と補正予算合わせた額の本年度は半分ぐらいの予算なのですけれども、この事業については好評で毎年補正でふえているのではないかと。最初からやっぱり予算をふやさないで補正ですするというのはどういうことかお伺いします。

また、概要版の4ページ。道路施設長寿命化修繕計画策定事業費。それらの概要と整備箇所、路線名、延長等わかる範囲内で伺います。

次に予算書の109ページ。大松・富谷・八溝大橋維持管理費負担金、これは那珂川町と折半だということを知っていますけれども、昨年から100万円の減額になりました。これらの負担金の概要と維持管理費予定を伺います。

次に予算書の73ページ、企業誘致事業費。1億7,451万4,000円の概要と予定を伺います。本年度は減額補正をしていましたが、来年度はこのままいくのかどうか伺います。

次に、概要版の13ページ。風しん予防接種事業費追加的対策経費、これは新規事業だと思うのですけれども、どういった内容か伺います。

同じく概要版の13ページ。地域力強化推進事業委託経費、292万5,000円。これも新規事業ですので、概要等を伺います。

次に、予算書の109ページ、市民秋まつり実行委員会交付金、300万円が予算化されていますけれども、実行委員会の組織はできているのかどうか伺います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸）　　まず予算書75ページ、観光協会支援事業費についてお答えします。こちらは円滑な観光事業の実施に際しまして、観光振興を図るものとして観光協会が実施する事業費に対して補助するものでございます。

1,190万円で昨年度よりも増額となっていることにつきましては、観光協会の予算の見積もりの中で繰入金のほうが若干減ったため、その分市のほうの補助金が増額となったこととなります。

次に同じく75ページ、山あげ会館と龍門ふるさと民芸館、こちらにつきましてはまず山あげ会館のほうなのですけれども、山あげ会館の運営費につきましてはこちら、修繕料としまして山あげ会館入口の看板の修繕費用が入っています。プラス指定管理料として1,595万円で、指定管理料については昨年度の実績を踏まえまして、若干ではあります下がっているところでございます。

龍門ふるさと民芸館につきましては、874万4,000円ということで、こちらは若干増額しているところなのですけれども、これは10月以降の消費税が増額する分を指定管理料に加えているところでございます。

次に、予算書の73ページ、企業誘致事業費になります。こちらは1億7,451万4,000円ということで、まずこちらは企業立地フェア、ビジネス商談会、企業立地のPR等の旅費と企業立地奨励金で構成しております。企業立地奨励金につきましては、38件を予定しております。こちらは、ことしの3月補正で減額したところなのですけれども、来年度の予定として計上しているところであって、実際に企業が立地しなかったとか、また雇用の数を満たさなかったということで減額はあり得るものと考えております。

最後、190ページの市民秋まつり実行委員会なのですけれども、昨年12月に新しい市民秋まつりの実行委員会を立ち上げたところでございます。内容については今後実行委員会で検討していくこととなります。

以上です。

○議長（沼田邦彦）　　小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩）　　それでは、私から、予算書の77ページ、ふれあいの道づくりについてお答え申し上げます。こちらは、議員御指摘のように平成29年度、平成30年度、平成31年度と当初ベースにおきましては同じような金額で計上させていただきました。

ただ、議員が言ったとおり、平成29年度の決算額がことしの当初額に比べ倍近くということなのですが、こちらはあくまでも4月1日現在の見込みで計上させていただきますので、こちらは地元負担等もありますので、現実的には補正等で対応させてもらっているのが現実でございます。ただ、議員が言ったように人気が高い事業でございますので、財源の確保ができれば

ば補正で対応させていただきたいと思えます。

次に概要版の4ページです。道路施設長寿命化修繕計画策定事業費1,120万円。こちらは、いわゆる法令で義務づけられている橋梁とかトンネルの点検、人間ドックみたいな形なのですが、こちらが5カ年でやりなさいということで、今年度平成30年度末で全て1周目が終わります。

そして、じゃあ、点検されて、修繕が必要になるという箇所が当然出てきますので、こちらの修繕計画を策定する費用でございます。こちらは当然国からの交付金が入っていますので、ですから具体的に那須烏山市が道路管理者として管理している橋梁が140橋、トンネルが2つと、そちらの点検に基づきこれから修繕計画を立てると。こちらは、修繕の費用を、国の交付金をいただくためには、やっぱり必須の条件になっていますので、そういった計画でございます。

次に、予算書の109ページの大松・富谷・八溝大橋維持管理費の負担金の減額の理由でございます。こちら、3つの橋梁、那珂川町と那須烏山市にまたがってありまして、管理者是那珂川町ということでそちらへの私どもの負担金ですが、こちらの減額の大きな理由は、大松橋の橋梁補修が一通り終わったということで今年度は減額となります。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） それでは私からは、概要版13ページの風しんに対する追加的対策経費についてでございます。近年風しんのほうがふえているということで、国の方で追加的対策として出されました。まずは先天性の風しん症候群の発生を防ぐのが一つ。それから、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、風しんの発生及び蔓延を予防するというので追加的対策がされました。

市では、これの対象となる方は39歳から56歳の男性ということになっておりまして、およそ市内には2,000人の方がいらっしゃいますが、初年度は1,263人の方が対象となります。ワクチンの確保の関係もありまして、初年度は40歳から47歳までの方を対象にするということとなっております。その中の2割の方で260人を予定しているのですが、予防接種をやる対象になるだろうということで728万円の予算となっております。

それから、地域力強化推進事業の委託費でございますけれども、こちらは、地域共生社会構築のために我が事・丸ごと地域づくり推進事業補助金ということで、国の補助金が4分の3付いておりまして、その補助事業に手を挙げて、住民が主体的に地域課題を把握して解決をする体制づくりということで、その人件費。それから、研修のための費用ということで入っております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 2番興野議員。

○2番（興野一美） 予算書の75ページの山あげ会館、龍門ふるさと民芸館の運営費なのですけれども、やっぱり企業的な立場から見て、もう少し経営努力をしてもらえれば、もっともっと指定管理者の委託費が少なくなるのではないかと思いますので、その点いかがでしょうか。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） ただいまの御質問にお答えします。山あげ会館と龍門ふるさと民芸館につきましては指定管理料を平成29年度に、平成30年度以降について見直しまして、その際かかる経費につきまして再検討したところでございます。

それに基づきまして、人件費の見直しであったり、事業系ごみの収集の委託料の見直しであったり、空調設備の見直し等を含めまして適正な額を積算したところでございます。一応は5年間の債務負担行為ということで、指定管理料については5年分決定したところでございますが、今後経営についても企業的な視点を踏まえて観光協会のほうで経営できるように、本年度の補助金のほうに観光協会の事業の経営の見直しということで、コンサルティング費用を一部含めておりますので、それらを踏まえて今後検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 2番興野議員。

○2番（興野一美） 了解しました。

橋梁の、大松・八溝・富谷橋のことなのですけれども、那珂川町が施工というか管理することですので、400万円から100万円減って300万円ということは、600万円で年間、今年度はどのような橋の維持費、維持というか補修というか、予定しているかわかる範囲内でお願いたします。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 昨年度まで、大松橋の橋梁補修、こちら国の交付金をもらって那珂川町が施工していたわけなのですが、一通り終わりまして、今年度の主な大きい内容は橋梁の照明です。照明、ナトリウム灯からLED化することが主な内容でございます。そちらの負担金ということで計上させていただきました。

○議長（沼田邦彦） 3番堀江議員。

○3番（堀江清一） 通告書を提出していなくて大変申し訳なく思っております。

市の予算書からページごとに追って質問をさせていただきます。

ページでいうと、67ページ。農業振興費、自分の質問は基本的に内容はどのような内容な

のかということでお伺いしますのでよろしくお願ひします。農業振興費の内容はどういうものなのか。

続いて、69ページ。農地振興費の下に多面的機能支払交付金事業費という内容です。

続きまして、興野さんの質問と若干だぶっているのですが、龍門ふるさと民芸館の運営費、それと龍門ふるさと民芸館の施設整備費と別々になっておりますが、その中身をよろしくお願ひしたいと思います。今、ページは75です。済みません。

続いて79ページ。一番下の方に大桶運動公園施設整備費ということになっておりますがその内容です。

それと、87ページ。烏山小学校施設整備費ということで、中身は多分トイレの改修だと思うのですが、その辺の具体的な内容をお伺いします。

それと、89ページ。つくし幼稚園のあずかり保育事業費とありますが、27万2,000円、どんな内容の保育なのかをお伺いします。

これは、質問していいことなのかどうかですが、91ページ。ユネスコ無形文化遺産保存事業費831万円ですか。それと、元に戻って、75ページにユネスコ無形文化遺産活用推進事業費とありますが、この中身がわかればと思います。済みません、ちょっと前後してしまいました。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 予算書の67ページ、農業振興費の内容についてお答えいたします。

主に農業振興のための、農業担い手等団体の補助金等がこの中に含まれております。

次の多面的機能支払交付金事業。この事業は国の事業でございまして、現在各地域において11団体が取り組んでおります。5カ年事業として取り組んでございまして、主な内容は農地の保全等を地域で共同して行うという事業でございまして。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 予算書の75ページ、まずユネスコ無形文化遺産活用推進事業についてお答えします。こちらは山あげ祭に際しまして、山あげ祭の実行委員会に対する交付金プラス、山あげ祭の文星芸術大学との連携によるパンフレット作成費等、それらのほうがユネスコ文化遺産活用推進事業。実際の山あげのお祭りにかかる部分の費用になってきます。

次に、龍門ふるさと民芸館につきましては、先ほどもお答えしましたが指定管理者の指定管理費を支払う費用と一部小破修繕料と、龍門ふるさと民芸館は借地を借り上げておりますので、

借地借り上げ料が一部入っているところがございます。

龍門ふるさと民芸館の施設整備費につきましては、こちらは施設の大規模改修を行う際の設計委託費用としてそちらのほうを計上しているところがございます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私から79ページ、一番下の大桶運動公園施設整備費の200万円の内容を御説明を申し上げます。こちらは既存の遊具で滑り台がありまして、そちらが老朽化していますのでその更新の費用でございます。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 87ページ、烏山小学校施設整備費1,400万円でございますが、烏山小学校のトイレの洋式化ということで平成30年度から行ってございまして、平成30年度は南舎ということで、平成31年度につきましては本館工事を予定しております。まだ北舎が残っているという状況で、3年計画で洋式化を進めている工事になります。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 予算書89ページのつくし幼稚園のあずかり保育事業についてお答えいたします。こちらにつきましては、幼稚園の教育時間の終了後ということで、時間的には午後の2時以降になるかと思いますが、地域や保護者の方の要望に応じて、あずかり保育を行うということに関する経費で、おやつ代、飲み物代などの費用でこちらの予算を計上しております。

○議長（沼田邦彦） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 私からは、91ページのユネスコ無形文化遺産保存事業費ということでお答えいたします。

こちらは国の重要無形民俗文化財としての烏山の山あげ行事を支援していくということで、烏山山あげ保存会に対する運営の補助金。それから、山あげ行事に使います機材、山とかそういうものの修理にかかる補助金について支出するものであります。

○議長（沼田邦彦） 3番堀江議員。

○3番（堀江清一） 75ページの龍門ふるさと民芸館のことで質問をさせていただきます。今回施設整備というか改修をするようではありますが、運営費と合わせて1,400万円程度お金がかかっているわけで、ただいま現在は入館料を取っておられないかとお伺いしましたが、今後、例えば100円ぐらい取るとかいうお考えはないでしょうか。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 龍門ふるさと民芸館についてお答えします。こちらは施設

の改修の設計費用として平成31年度は予算を要望しておるところですが、入館料については現在無料で中に入れるようなことになっております。今後につきましては、入館料については今のところは無料のままでいく予定なので、観光協会と今後についてまた検討して、必要であれば入館料を取るということもあり得ると思います。

○議長（沼田邦彦） 3番堀江議員。

○3番（堀江清一） 小学校のトイレの整備費、87ページのトイレのことなのですが、自分が見た目では1,400万円の計上になっておりますが、トイレの洋式化工事ということで1,400万円という金額を計上しているようですけども、自分らの感覚だとちょっと高いような気がするのですが、いかがでしょうか。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 今回洋式化、今現在が和式なものですから、洋式化しますとブース自体も交換、幅が違うのでブースも交換しなくてはならない。また、水道工事、それとホット便座というか、暖房便座も設置したいと考えておりますので、電気工事も必要になるというようなことで金額がかかるということです。

○3番（堀江清一） 了解しました。

以上で終わります。

○議長（沼田邦彦） 4番荒井議員。

○4番（荒井浩二） 私のほうも事前に通告書をお渡ししていないのですが、申し訳ありません。

ページ順に質問をいたします。まず、3ページの歳入のほうなのですが、こちらの財産売払収入のほう、これは昨年度も3,000円とあるのですがこちらの内訳を教えてください。

次に9ページ、こちらもやはり歳入なのですが、自動車取得税交付金、こちらが1,000万円減額となっております。こちらの理由について教えてください。

次に、33ページです。こちらの下のほうにある余剰電力売払料、5万7,000円とあり、昨年とこれも同額なのですが、こちらはどこに設置されているもので、あと何年で減価償却、回収されるのかをお願いいたします。

次に、39ページ。こちらの広報費のホームページ管理運営費と特設サイト管理運営費なのですが、こちらが何年契約なのか。それと、これは入札なのだと思うのですが、総額で決まっているところに何らかの費用が発生して金額、予算が上下しているのか、こちらの金額が毎年違う理由について教えてください。

次に、43ページです。こちらの情報政策推進費の項目の中で、こちらのシステム系の管理運営費のほう、こちらの政策推進費の中の項目全部なのですが、こちらは随意契約なのか、任

意契約なのか。システム系のものなので、国や県と同じようなシステムを使っている関係で業者を選べないようなものなのか。

それと、こちらの情報セキュリティ強化対策事業費の内容について教えてください。それと、金額がかなり昨年のものよりふえているのですが、理由についても教えてください。

次に58ページの生活保護費ですが、こちらは昨年度と比較して大幅減となっております。こちらの理由についてお教えてください。

次に85ページです。こちらの事務局費のほうで文武両道教育推進事業費だったり、英語コミュニケーション推進事業費、英語教育推進事業費とあるのですが、こちらの内容、事業の内容とかかっている費用の大体の内訳を教えてください。

次に、91ページです。91ページで、やはり社会教育総務費のほうでイングリッシュセミナー事業費と若者交流事業費とあります。こちらの事業内容と内訳について。特に若者交流事業費が昨年と比べて半分近く減っているの、理由なんかについても教えていただければと思います。

それと、下の項目の文化財保護費です。こちらが、文化財保護費と文化財調査費なんかはふえているのですが、烏山城関係で増加しているのか、そちらについて御説明をお願いします。

最後に93ページの公民館費です。こちらは全体的に烏山南公民館以外全部減額となっているのですが、こちらの大体の内訳を教えてください。

それと、烏山南公民館のほうにいつも駐車場に停まっている車があるのですが、そちらの車の管理についてどちらが管理されているのでしょうか。軽自動車です。

以上です、お願いします。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） まず9ページの自動車取得税交付金につきましては、前年からの実績等を勘案して1,000万円を減らしたものでございます。

歳出のほうの39ページ、広報のホームページ関係、特設サイト関係の契約年限ですが、平成31年度までで切れる予定です。ですので、平成32年度見直しになります（「5年ごととか、3年ごととかありますか」の声あり）、5年だったと思います。

金額の増減につきましては、ホームページの中にはとちぎテレビのデータ放送とかメールマガジン等の契約も入っておりますので、そちらにつきましては件数とか時間で動きますので、増減が発生してしまうものでございます。

次、43ページ、情報セキュリティの関係で、全体に随意契約か入札かということなのですが、情報セキュリティの中では主にプロポーザルが大きいものはあります。あとは、細かい部分については随意契約になります。

セキュリティ情報関係の86万7,000円につきましては、こちらは栃木県の情報セキュリティ・クラウドの使用料になりまして、マイナンバー制度の連携によりまして県がセキュリティ・クラウドを構築しておりますので、そちらの構築のシステムに参加しているということで使用料でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 3ページの3,000円の件でございますが、29ページをごらんいただきたいのですが、こちらに節で3つほど載っていると思います。科目存置として、土地売払収入と建物と物品の売払ということで、1,000円ずつ載せておりますので、この合計が3,000円ということで。これは、実際に発生した段階で補正で対応ということになります。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私からは、予算書58ページ、59ページ、60ページにわたっております生活保護費の減額についてでございます。こちらは、主に生活保護費は、生活扶助、それから介護扶助、医療扶助と大きく3つに分かれるわけですが、介護扶助が減っている、人数が減っているということと、大きくは医療扶助、精神科の入院の医療扶助の方が今、地域移行が進んでおりまして、グループホームとか施設に入所されたという方が2件ありまして、そちらのほうの減額となっております。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、85ページになりますが、まず文武両道教育推進事業費でございますが、こちらについては2つの事業、夢の教室事業とスーパーティーチャー育成事業ということで2つの事業を行っております。夢の教室事業については98万円。スーパーティーチャー育成事業については119万7,000円を計上しております。

続きまして英語コミュニケーション推進事業費でございますが、これは各学校に派遣しているALTの委託費が主なものになります。2,759万6,000円のうち、2,750万円が委託費になります。英語教育推進事業費でございますが、99万1,000円、これについては、英語検定の補助金になります。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私からはまず予算書33ページです。余剰電力売払料について。これにつきましては、南那須図書館に設置してあります太陽光発電の余剰電力の売払料で

ございます。あと何年までというのは、まだ調べていないので申し訳ございません。

続きまして、同じく予算書91ページです。イングリッシュセミナー事業と若者交流事業の内容と内訳ということでございます。イングリッシュセミナー事業につきましては、小中学生を対象といたしまして、年に2回実施する予定であります。イングリッシュキャンプとハロウィンキャンプの運営経費です。大部分につきましては、ALTの派遣費用でございます。ただ、今年度につきましては、ALTのほうを減額いたしまして、お手伝いをなすから英語塾の修了生のほうに頼むという方針で予算を計上しております。

続きまして、同じページ、若者交流事業のほうですが、これにつきましては、大部分は結婚推進員さんの費用、それと結婚相談所の設置費用です。減額になっている理由といたしましては、平成30年度まで市の結婚相談所単独事業として、業者委託でマッチングパーティーですとかをやっていたところなのですが、市内にも横枕の青年団さんとか、カッシーレさんとか、独自にそういった事業もやっているところもありますので、そちらへの協力とか方向転換という、事業をそちらのほうに振り向けて強化していきたいということで減額のほうをしております。

公民館のほうについては、各公民館の維持管理経費になっています。烏山公民館、南那須公民館については、一部管理会社、セキュリティ関係が入っておりますのでそちらのほうの計上もしております。

今回、烏山公民館のほうが減額となっているかと思うのですが、それについては御批判もあるかと思うのですが、今現在、事務所の外にリソグラフという印刷機があるのですが、そちらがたまたま他の施設のほうでリソグラフのリース期間が切れるということで、市の中で全体的に見直しをして、利用頻度とか費用対効果等を勘案して、そちらの施設のほうにリソグラフを持っていくということでリソグラフの維持管理費は減っております。

各公民館ごとの詳しいのも必要ですか。（「大丈夫、あと、公民館の車が烏山南公民館で」の声あり）

公用車、軽自動車は公用車で管理は公民館グループになっております。公民館の総務費のほうにそちらのリース費用等が入っております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 私からは同じ予算書91ページの文化財保護費、それから文化財調査費についてお答えいたします。

まず、文化財保護費につきましては、主に文化財保護全般のことを見ております。中でも文化財保護審議委員さんにかかる報酬等。それから今回増額になった主な大きな要因といたしま

しては、市内の民間の方が保有しております古文書、こちらにつきまして市に寄贈をしたいという申し出を受けております。寄贈を受ける場合にこれをデジタル化しまして、それを七合中学校の収蔵庫に保管したいと考えております。それにかかりますデジタル化等の経費を260万円ほど見込んでおります。

それから文化財調査費につきましては、議員お見込みのとおり、主な大きなものは烏山城跡の調査費が大きなおところでございます。こちらにつきまして、その中でも特に金額が大きいのは測量業務でございまして、烏山城跡を航空レーザの処理で測量しております。これを2年間計画の2年目ということで、今年度はそのほかに720万円ほどかかります。

それから草刈り等の費用となります。そのほかに長者ヶ平につきましても、引き続き史料活用ということで、進めておりますのでその経費等も含まれております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 4番荒井議員。

○4番（荒井浩二） またページ最初のほうから再質問させていただきます。

先ほどの売払収入の3,000円が毎年同じ理由に関して教えてください。

それと、私の勉強不足で申し訳ないのですが、自動車取得税の実績によっては減額だということなのですが、こちらは実績の算定基準というのはどういったものになっているのでしょうか。

次に、43ページの基幹系システムの管理運営費、こちら昨年と比べて大幅に増額になっていると思うのですが、そちらの理由についてお願いします。

また、91ページの今、回答をいただきました文化財のほうなのですが、こちらの民間所有の古文書を受け入れて多額の費用をかけてデジタル化するという、文化財保存のために必要なことではあると思うのですが、こちらの公開予定なんかはあるのでしょうか。どれくらい重要な書物なのか、そこら辺の所感について教えていただきたいのと、今、現在撮られてらっしゃる空間測量、ドローンで測量されているようなのですが、こちらというのは測量データを、ドローンじゃないんですか。空からって言っていましたよね。ヘリコプターですか。何にしろ、空から測量されているということなのですが、こちらで測量した座標データなんかを3Dマッピング化などして、後々烏山城の史跡を公開するときに使えるようなデータとなり得るのでしょうか。そちらについてお伺いします。

それと、93ページの公民館の管理費のリソグラフ、コピー機なんですか。

公民館のほうで公用車をどれほど所有しているのかちょっとわからないのですが、リースの契約年数も存じ上げないのですが、実際に、私は家の目の前に、うちの窓から烏山南公民館が見えるのですが、一度も動いているところを見たことがないんです、ここ3年以上だと思っ

ですが。もしかしたら微妙に動いているのかもしれないのですが、ほとんど、監視カメラなんかを早送りしてみても、動いているところを確認できなかったことがないので、もしかしたら緊急用に必要な車両なのかもしれませんが、本当に必要でしょうか。そちらについてお伺いいたします。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 先ほどの3,000円の件でございますが、先ほども申しましたように29ページのほうが節になっておりまして、こちらで土地売払の収入と物品売払の収入と建物売払の収入ということで、科目存置ということで1,000円だけ計上してこの科目をつくっておくんです。年度途中で売払等が発生した場合にここに入金するということになりまますので、当初には売払について予定をしていませんので、金額は計上していないということで毎年この金額が科目が科目存置ということでなっております、3ページのほうはこの節を積み上げた3,000円ということになります。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 自動車取得税についてお答え申し上げます。自動車取得税につきましては、100分の66.5に相当する金額、取得税の100分の66.5に相当する金額を市町村道の延長と面積で県内で按分されまして交付されるものでございます。

なお、実績ということで、平成30年度の当初予算では2,800万円、その前年は約2,000万円ということで若干動きがございます。

○議長（沼田邦彦） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤加代子） 私からは43ページの基幹系システム管理運営費が大幅に増額している理由ということですが、基幹系システムにつきましては、5年ごとの契約でリプレースをしております、平成31年度に5年目のリプレースを予定しているため、導入経費として1,800万円ほど計上しているため、例年のランニングコストに加えて増加しているということになります。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） お答えいたします。リソグラフにつきましては、印刷機です。なくなってしまうと御不便をおかけしますので、今、対応について課のほうで協議をしているところでございます。

それから公用車についてなのですが、烏山南公民館の前に停まっている公用車（「そうです、うちの家の前の」の声あり）、申し訳ございませんが、公民館グループで保有している車両については烏山公民館に駐車をさせておりますので、烏山南公民館のほうには生涯学習課では駐車はさせておりません。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 今、御質問をいただきました、烏山南公民館の公用車の件についてなのですが、こちらはすくすく保育園の公用車ということで、通常出張とか庁舎間での事務関係のやり取りとかで職員が使っております。

○議長（沼田邦彦） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 古文書の件でございます。古文書につきましては、県のほうで昭和60年以前に調査しました市内の貴重な歴史資料ということで、リストアップされているものでございまして、総数で900点以上あるということでございます。これにつきましては、持ち主の方が代々代替わりをしていく中で、もう自分で保存していくのは厳しいかなということで、できれば市のほうでということでございます。このままにしておきますと、この貴重な歴史資料がどうなってしまうかわからないということでございますので、ぜひ市のほうにくださるといふことでしたら保管していきたいと考えております。

展示とかにつきましては、まだ資料館も整っていない状況でございますので、今後、検討していきたいと考えております。

もう一つ、烏山城の航空測量の件につきましては、3D次元データの取得によりまして現況の平面図を作成するということございまして、議員がおっしゃった3Dマッピングですか、（「マッピングではない」の声あり）立体的に映るといふか、見られる、そういうふうな処理ができるところでございます。

○議長（沼田邦彦） 4番荒井議員。

○4番（荒井浩二） 先ほど申し上げた9ページの自動車取得税の件なのですが、単純に考えて国のほうで車が売れなくなった関係もあって減額しているということでしょうか。

それと、こども課さんの車の件なのですが、実際の利用状況をよく確認して、不要であれば解約してもいいのかなと思います。恐らくなのですが、これは私の勘でしかないのですが、もしかしたら自分の車で走っているのかなど。済みません、確認してみてください。よろしくお願いたします。質問じゃなくて要望です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 申し訳ありません、私の勉強不足かもしれません。消費税の関係で10月に環境性能割の臨時的軽減にかかわる財源確保というのがありますので、それを勘案して半年分だけを計上させていただいているということだと思っておりますが、確認をとりましてのちほど御回答申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） ただいまの公用車の利用の実態についてですが、基本的に出張とかそれから庁舎間の移動の際に私用車となりますと、燃料代の関係とかありますので、そういう利用はしておりません。もちろん交通事故に遭ったり、起こしてしまったりとか、そういう場合にもこれは問題となることにもなりますから、本来公務でということであれば公用車を使っております。ただ、停めている位置がいつも同じような場所に停まっているのでそういう違和感もあるのかなと思います。

○議長（沼田邦彦） よろしいですか。

○4番（荒井浩二） はい。

○議長（沼田邦彦） ここで暫時休憩いたします。再開を午前11時25分といたします。

休憩 午前11時13分

再開 午前11時25分

○議長（沼田邦彦） 休憩前に引き続き会議を再開します。

ここで、先ほど荒井議員の質疑に対しまして答弁漏れがございましたので、総合政策課長から追加答弁があります。石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 先ほどの自動車取得税交付金につきまして申し訳ございませんでした。

県徴収分の66.5%が市町村に道路の延長と面積割で按分されるのはそのとおりでございますが、9月までで廃止されまして、10月からは性能割交付金という制度が創出されますので、今回計上されている分については年の半年分ということで御理解願いたいと思います。

なお、性能割交付金につきましては、制度内容等を確認した上で、ある程度の金額見込みがついた段階で補正予算で対応させていただきたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 5番福田議員。

○5番（福田長弘） それでは、総括質疑通告書に基づきまして質問をさせていただきたいと思います。

予算書を出しておりますが、同僚議員から同じ項目が出ておりますので、そちらは省かせていただいて質問をさせていただきたいと思います。

まず、予算書の41ページです。シティプロモーション事業費、概要版のほうにふるさと大使関係とありますけれども、この事業の具体的な内容を伺います。28万5,000円が今年度計上されております、そちらのほうを伺いたいと思います。

続きまして、予算書75ページ。長峰ビジターセンター管理費でございます。こちら、栃木県の施設だと思っておりますけれども、栃木県のほうから管理委託金等が出ているのかどうかを伺

います。

続きまして、予算書105ページ、補助金、負担金の項目でございます。JR烏山線沿線まちづくり推進協議会負担金400万円がゼロになっております。こちらの減少の理由をお聞かせください。

続きまして、予算書107ページ、とちぎ「食」の回廊づくり推進事業負担金。こちらも218万円ありましたが、10万円になっております。事業負担金の減少の理由をお聞かせいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、シティプロモーション事業費、41ページです。その内容についてお答えいたします。

まず、ふるさと大使という大使が現在8名、平成28年12月3日から3年間の任期で委嘱されております。

総務課から平成31年4月にまちづくり課が移管を受け実施することとなります。これらのふるさと大使につきましては、あと1年任期が残っていることから、ふるさと大使にかかる謝礼、これは何か事業をやった場合のそれに対する報奨ということになります。そのほかに名刺代、8名の方の名刺代として17万円ほど予算措置をしているところでございます。

主だったものはその事業費になりますが、そのほかに実は平成29年度にシティプロモーション基本方針というものを総合戦略に基づきまして策定したものがございます。これが平成31年度をもって終了となることから、その基本的見直しを図るため、平成31年度におきましては、認知度向上、魅力度アップのためにどのようなことをやっていったらよいか、市民とのワークショップをしながら計画していきたいと考えております。そのワークショップにかかる食糧費を若干取っております。

以上が28万5,000円にかかる費用でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 長峰ビジターセンターの管理費についてお答えいたします。

昨年度につきましては、施設の維持管理費用が75万4,164円に対しまして、県からの委託金は27万6,480円ございました。長峰ビジターセンターについては、施設の老朽化も著しいところと、来館者も少なくなっていることから、施設の維持管理方法や施設のあり方について、栃木県と協議してきたところでございます。

しかしながら最終的な結論に至らなかったために、平成31年度につきましても市が施設の維持管理を行うこととなりました。来年度につきましては、電気料のプランの見直しですとか、

固定電話の廃止など、歳出の見直しを図るとともに、市の要望を踏まえて県の委託金が10万円ふえまして37万5,000円負担金が入ることになりました。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 予算書105ページのJR烏山線沿線まちづくり推進協議会の負担金の減について御説明申し上げます。こちらにつきましては、平成28年度から平成30年度まで3カ年事業として地方創生交付金を活用して事業をしてまいりましたが、高根沢町との事業でございますが、一定の効果があったということで地方創生交付金も今回で終わりということですから、一応事業を終了させるための減額でございます。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 予算書107ページのとちぎ「食」の回廊づくり推進負担金の減額でございますが、平成31年度の予算の内訳10万円については、八溝そば街道推進協議会への負担金5万円と、那珂川あゆ街道推進協議会へ5万円の10万円でございます。

前年度はこの予算に八溝そば街道推進協議会への負担金として、そば祭りの負担金213万5,000円が入っております。この予算措置については平成31年度、八溝そばブランド力向上支援事業の中に、負担金として300万円を予算措置をしておりますので、以上の内容でございます。

○議長（沼田邦彦） 5番福田議員。

○5番（福田長弘） 説明ありがとうございました。シティプロモーション事業、私がお願いする、事業が終わるといような形なのですけれども、シティプロモーション、非常に那須烏山市をどんどん高めていくためにも重要だと思います。市民の方と意見を交換し合いながら那須烏山市魅力向上のために頑張って、引き続きまた何かの形でやっていただければと思います。

それで、長峰ビジターセンターの管理費の件なのですけれども、県から10万円委託金増額となったということですが、やっぱり足りない。ぜひ、もう一步栃木県とよく協調して、かかるものはお願いしますと、できるだけ市の財政負担を少なくするように努力していただきたいと思います。

JR烏山線沿線まちづくり事業負担金、一定の効果があったということですが、今後まだまだJR烏山線推進、高根沢町と協力し合いながら、まだ何かしら出てくるかと思うので、一定の効果が上がりましたが、一定の効果なので、全体的な効果を上げるためにもこれからも進めていっていただきたいと思います。

「食」の回廊づくりについては了解をいたしました。

以上、いろいろありますが、今後の那須烏山市の発展をお願いしたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（沼田邦彦） 6番村上議員。

○6番（村上進一） 6番村上でございます。質問をする前に今回不覚にもインフルエンザにかかってしまいまして、議会運営に大変支障をきたしたことを改めてお詫び申し上げたいと思います。

特に執行部におかれましては、一般質問に関しまして時間をいただいているいろいろレクチャーをいただいたにもかかわらず、一般質問が取り下げになりました。ぜひ、次回6月の一般質問に御期待いただければと思います。よろしくをお願いします。

では、質問に移りたいと思います。今回予算審議は初めてなので、素朴な疑問がありましたので2件ばかりお伺いします。

全て予算概要から質問させていただきます。7ページなのですけれども、自主財源比率です。自主財源比率が35.3%、これはどうなのかなと思って、県の市財政状況平成29年度版を見たのですが、見てびっくりしたのですけれども、那須烏山市は最低なんです。35.8%、自主財源比率の状況、平成28年度なのですけれども、だから今財政が破綻どうのこうのではないと思うんですが、当然自主財源比率は高いには越したことはない。行政活動の自主性と安定性が高いと思われるので、この辺は、市のほうとしては自主財源比率の低い点に関してどのような認識でおられるのか、また今後これが改善されるのかどうかをお聞きしたいと思います。

もう一点なのですけれども、8ページに歳出の性質別で人件費というのが出ていまして、17.5%なんです。同じく平成28年度の県の資料を見ますと、人件費は平均で県内が15.7%になっているんです。素人考えですと、財政が困難であれば、こういった人件費的なものを削減して、削減分を市民に福祉とかそちらの市民が享受できるであろう予算に回すのが、私は素人で考えるのですけれども、その辺この人件費が適正なのかどうかもお聞きしたいと思います。

それと、個別に今回何点か質問をさせていただきます。11ページ、中学生の海外派遣事業費なのですけれども、これは9月の決算の審議の中で文教福祉常任委員会から「姉妹都市であるメノモニー市への中学生派遣が平成29年度で20回目の実施となった。中学生が国際的視野の拡大を図る貴重な機会であるが、相互交流を期待するものの、メノモニー市からの本市への来訪がないことや、メノモニー市側の受け入れにかかる負担を考慮し、本年事業の見直しを検討されたい。」ということになっています。今回、184万2,000円の減額になって見直しをされたと思うのですが、その見直しの内容についてお聞きします。

次が、高等学校教育振興事業費で、今回も烏山高校の遠距離通学補助が出ているのですけれ

ども、これは果たして鳥山高校の人気度にプラスになっているのでしょうか。これを今後とも続けるのかどうかをお聞きいたします。

それと、同じく11ページのジオパーク構想推進事業費。760万円なのですが、これは前年度から230万7,000円減額になっているのですが、このジオパークも「ゼロベースでの見直しを検討されたい、日本ジオパークネットワークの正会員になることありきではなく、まずは貴重な地域資源を子供たちの教育に活用し、郷土を愛する心の醸成を図るよう取り組まれたい。」という答申が出ていますので、この減額の理由と今後もジオパークの認定を目指すのかどうか、その辺の方針をお聞きいたします。

続きまして、12ページのデマンド交通運行管理費です。デマンド交通に関しても、決算で「デマンド交通について、路線拡大やコールセンターのあり方などを検討し、交通弱者が利用しやすく効率的、効果的な運行に向け見直しをされたい。」となっております。今回デマンド交通は276万5,000円増額になって、市民の皆さんにアンケートがとられていると思うのですが、その結果をどのように増額された予算の中で反映するのかをお聞きしたいと思います。

これに関連しまして、やはり概要の3ページの新規、地域公共交通網形成計画策定事業費に358万4,000円。交通弱者対策等の地域課題解決に取り組むとなっておりますが、具体的にどう取り組むのか、予算をどうやって使うのかをお聞きいたします。

続きまして13ページ、概要書です。13ページのふるさと応援寄附金事業費です。返礼品取りまとめ事業委託費が260万円となっているのですが、86万8,000円減額となっています。これは、ふるさと納税ですね、いろいろ物議を醸しているけれども、これは「ふるさと応援寄附金については、制度の趣旨を踏まえ、地域の魅力発信や交流人口の拡大等も視野に魅力ある返礼品の充実を図り、自主財源の確保に努められたい。」との答申が出ていますから、今後このふるさと納税に関してどのようなスタンスで取り組むのかをお聞きしたいと思います。

それと、19ページ。地域おこし協力隊事業費なのですが、対前年度553万5,000円減額となっているのですが、今年度の事業計画、この減額はこういった意味で地域おこし協力隊、人数が減るとか、いろいろそういった具体的な内容がわかればお教えいただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） それでは、概要書7ページ及び8ページについて御回答申し上げます。

一般会計予算の中で自主財源比率の低さというのは予算の議論をするたびの話題になると理

解してございますが、もともと那須烏山市は、烏山町と南那須町当時の合併理由が財政逼迫の状況の中から、お互いに合併したということでございます。

県内最下位は議員御指摘のとおりで、改善策ということでございますが、これといったといえますか、そう言うては変ですけれども、これをやれば改善されるだろうというようなものは現実にはないのかなと。地道な努力、総合計画なり、まち・ひと・しごと創生総合戦略なりを地道にやっていくほかないのかなと思っております。

したがいまして、財源の厳しさは相変わらずでございますが、その中でどうしても予算を組んでいかなければならないということでございますので、ぜひとも御理解いただければと。議員のほうでこれをやれば10%もいきなり上がりますよという名案があればぜひ教えていただきたいと思っております。

次、8ページの性質別の人件費が17.5%ということでございますが、新聞報道しか見ていないのですけれども、ことしの県内の当初予算の状況で見ますと、対予算額では県内で5番目でございます。1人当たりには換算すると市では4番目、県内では10番目の人件費の経費がかかっているということでございますが、ただ単純に一律に17.5%がいいのか悪いのかとか順番がどうのこうののではなくて、基本的にそれぞれの市町の年齢構成とか議員報酬とかも全部人件費の中には入っておりますので、一概にこれが高い安いの議論には当たらないのかなとは理解しております。ただ、議員御指摘のとおり、人件費につきましては、人事院勧告等を尊重しながら特に那須烏山市が高いというわけではございませんので、人件費の節約には努めていきたいと思っております。

あと、ふるさと納税です。13ページになります。こちらにつきましても、以前平塚議員から財源としてどうなんだという御質問をいただきましたが、国のほうからは30%しか返礼品は出すなという御指導もございまして、平成28年度をピークに年々若干ずつ下がっている状況でございます。ただ、地元の那須烏山市に寄附をしていただくという貴重な御意思を尊重したいと思いますので、市としてはなるべく伸ばしたい、また魅力ある返礼品を出したいと思っております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 私から概要書のまず12ページ、デマンド交通運行管理費についてお答えいたします。

議員からもお話があったとおり、現在デマンド登録者宛のアンケート調査を実施しております。これにつきましては、3月中旬を目途に回収予定となっておりますので、その結果を新年度始まりまして5月中までにはまとめあげ、6月に交通会議という会議がございますが、その

際に内容を発表し、その後改善できるものは改善するという流れで、デマンド交通の利用向上に向けて取り組みたいとまず一点思っております。

そのほかに、デマンド交通に関しましては10月から消費税も上がります。現在、借り上げ料として2,400円の借上料をタクシー会社に2台分ずつ毎月支給しているところですが、この借り上げ単価そのものの見直しを図らなければいけないことから、当初予算に関しましては、借上料の値上げを見込んで予算措置しておりますので、その分借上料の値上げで増になっている経過がございます。

また、今度概要書の3ページに移らさせていただきたいのですが、地域公共交通網形成計画の策定事業費というところになるのですが、先ほどのアンケート調査はあくまでデマンド登録者向けのアンケート、そのための利用向上についての調査を現在実施している。この地域公共交通網形成計画の策定に当たっては、市民に対し地域の公共交通がどうあるべきかといったところの意向調査も踏まえておりますので、デマンド以外の地域公共交通に関するアンケートを平成31年度は実施してまいりたいと思っております。

それを受けまして、平成32年度にこの計画を策定することになりますが、デマンド交通を含めた地域公共交通のあり方については改善策が見えてくるのかなと思っております。

続きまして19ページ、地域おこし協力隊事業費でございますが、これにつきましては、平成31年度の計画としては大きく2つ。1つは現在の、1期生という呼び方で私どもが呼んでいるのですが、9月をもって任期が終了いたします。3名の方です。この方々のための定着に向けた支援を図るということで、民間企業と事業計画についての内容の精査について今検討をしているところでございます。

そのほかに、新たな地域おこし協力隊の採用ということで、本来であれば平成30年度10月から採用予定でありましたが、募集した結果こちらの意向と合わないということで見送った経過がございます。それにつきましては、この3月の定例会において減額補正で対応させていただきました。ただ、さらにあと2人は採用する予定で考えておりますので、どういった方を採用したらいいのかどうかも含めて現在計画を見直しているところでございます。

減額の理由につきましては、先ほど若干申し上げましたが、9月をもって3名の協力隊任期終了となりますので、10月からその次の年の3月までの人件費にかかる費用が減額になっているところが大きな要因でございます。

以上であります。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、概要版の11ページです。

中学生海外派遣事業につきましては、一部見直しを行いました。派遣人数を平成30年度

16名から平成31年度10名ということで6名の減を行ったところでございます。

次に、烏山高校の通学補助につきましては、宇都宮市、さくら市、高根沢町、那珂川町等の通学者がふえております。年度別支給者は平成26年度87名、平成27年度122名、平成28年度168名、平成29年度173名となり、年々多くなっている状況でございます。ただし、これについてはもちろん遠距離からの通学者もふえたというところもあるかと思いますが、バイク通学者が激減をしております。というようなことで、学校のほうから、毎年バイク事故というのはどうしてもあったということで、そちらの報告がここ何年かはないと。バイク事故の報告がないということで激減したと、事故のほうはなくなったというような話は聞いております。

この事業でございますが、平成31年度までの事業というようなことでございますので、平成31年度については現状のまま支給をしたいと思っております。平成32年度以降については、今後廃止も含めて検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 私からは概要書11ページのジオパーク構想推進事業費につきまして、今後も推進するのか、また、見直しが必要かというようなお話でございます。

ジオパーク構想推進事業につきましては、御存じのとおり、平成29年度、私が文化振興課長になった4月にジオパークネットワークの正会員登録に向けて申請をいたしました。そして、審査の結果で多くの項目で活動できる準備が整っていないとか、ジオパークのレベルではないとか散々な評価をいただき、現地調査さえも見送りとなった初めてのケースということでございます。

その結果を踏まえて、同年の12月に臨時の協議会を開きまして、今後の方針の見直しということで、そのとき見直しを図りました。その中での見直しの内容につきまして、那須烏山市の人口減少や厳しい財政状況を直視して、ジオパークの理念を踏まえつつ、頻繁にジオパーク構想の事業の見直しを図りながら、長期的な視野に立って正会員への登録を目途に活動をしていくというような内容でございまして、その内容を踏まえた結果現在活動しているのが、市内の児童生徒へのジオパーク構想の継続的な学習機会の増加、それからジオガイドの養成等、今取り組んでいるところでございます。ということでございますので当面このような活動を続けていきたいと思っております。ジオパークのガイドにつきましては、市内の小中学校への派遣とかをしておりますして実績を上げております。

さらに、予算が減少になった理由でございます。昨年は烏山城築城600年記念事業がありました。烏山城につきまして、ジオサイトの一つということで、そこにジオパーク推進事業費

の経費をあてた経緯がございます。その辺のところの減少が主なものでございますが、その他に報奨金、ジオパークの協力者とか委員の先生方に報奨金ということで、謝礼ですか、協力していただいたとき、会議に出ていただいたときの謝礼等、こちらを計上しておいたものが実績によって若干減額されたのが大体120万円程度。それから、職員旅費につきまして、去年は全国大会や研修会等々に行っておりましたが、その辺もちょっと見直しをいたしまして、約55万円の削減ということになっております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 6番村上議員。

○6番（村上進一） 実は私、議員になる前は金融団としてジオパークの会議に参加していたのですが、こういう結果になるよとそういった講師の先生から言われて、そのとおりになったのですが、認定ありきではなくて、当然郷土の歴史とかそういったのを広く知らしめることは重要なので、そういったジオパークの認定ありきではなくて、地道な活動が最終的にはジオパークの認定につながると思うので、そっちの活動はぜひ継続してやっていただきたいと思います。

先ほど人件費の件で我々議員の報酬も入っているよと言われたのですが、我々の議員の報酬は県内でも最低でございまして、そんなに人件費の割合に影響を及ぼしているとは思わないので、その辺はぜひ御理解いただきたいと思います。

続きまして、デマンド交通なのですけれども、私も同感でございまして、今度いろいろやっていただきたい。実は野上のいきいきクラブの方と、向田のふれあいの里という食事を出すところがありましたよね。市長も行かれる、300円で御飯が食べられる。結構コーヒーなんかも付いて、そこに一緒にいきいきクラブと行ったのですけれども、皆さん何か今困っていることないですかと聞いたときに、足かなということだったんです。足といっても、年にとって膝が痛くて階段の上り下りが大変だという足じゃなくて、移動する足です。買い物をするにしても、何するにしても、移動する足の確保が大変です。皆さんデマンド交通利用していないんですかと言ったら、いや、デマンドあれ使いつらくて利用しないんだという声があったんです、実は。

今回このいろいろな方策をして利用をしやすいようにするということは、ぜひ必要なので、今後そういった市民の声を聞いていただいて、利用しやすいデマンド交通に変えていただきたい。

そのときに、向田のエフエー観光の方が月次のほうからお年寄り20人ぐらいを連れて、向田ふれあいの里に食事に連れて来ていたんです。エフエー観光の方に聞いたら、大木須とかあっちの自治会でベシアとかたいらやに買い物に連れて行ったり、あとは月1回ぐらい烏山城カントリークラブの温泉に連れて行ったりしているんですって。そのお金が自治会から出てい

るのか利用者負担なのか、はたまた補助金なのかはわかりませんが、大変喜ばれているということを知ったのです。荷物なんかも玄関に届けてやったり、ドライバーの方はしていると。

これは、こういった民間の活用でここに書いてある交通弱者、お年寄りを助ける意味ではこれは大変非常にいいことなので、これを全地区で広めたらいいのではないかとそのとき思いましたので、ぜひ地域公共交通網形成の一つの案として頭の中に入れていただければいいのかなと思った次第でございます。

私の質問は以上なのですが、市長、1点だけ時間があるのでよろしいですか。今回の、ここには書いてないのですが、今回の予算編成の中で市長が一番ここを見ていただきたいと、（「最初に挨拶しましたよね。挨拶したけど改めてですか」の声あり）済みませんでした、インフルエンザで休んでいて聞き漏れてしまいました。わかりました。

では以上で終わりにします。

○議長（沼田邦彦） 答弁はよろしいですか。ここで暫時休憩いたします。再開を午後1時といたします。

休憩 午前11時57分

再開 午後1時00分

○議長（沼田邦彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

7番矢板議員。

○7番（矢板清枝） 7番矢板でございます。平成31年度当初予算総括質疑を始めさせていただきます。まず、通告させていただいた部分でダブっているところは、質問いたしません。

なので、概要版11ページ、特別支援教育等推進事業、デージー教科書の台数と活用法について、伺いたいと思います。145万5,000円のもので。

概要版13ページ。学校施設等長寿命化計画策定事業費の内容をお聞きしたいと思います。

それから、概要版22ページ、ファミリー・サポート・センター事業費。今回は予算化をしていないんですけれども、今後の対応について伺いたいと思います。

概要版24ページ、市営住宅施設整備費の、全て予算化していない部分なんですけれども、予算化していないものに対して今後はどのように対応していくのかをお伺いしたいと思います。

それから予算書106ページ、障害児デイサービス事業（くれよんクラブ）負担金というのが昨年度はあったんですけども、今度は予算化していないので、今後の対応について伺いたいと思います。

予算書111ページ、各団体への補助金というのが、増減が見られる部分があるんですけれ

ども、設定基準について伺いたいと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、概要版の11ページ、特別支援教育等推進事業、デジ教科書ということでございますので、デジ教科書は、今回については、デジ教科書をやるためのタブレット購入ということになります。デジ教科書等については、映像と音をもとに授業ができるということで、大変児童・生徒に興味を持っていただけるということで、興味を持っていただけることによって、授業が進めやすくなるということで導入するものでございます。今回はタブレット導入ということで、今現在は7台が設置されております。今回は追加分ということで、支援学級用として14台、それと通級教室用ということで4台の今回は18台を追加する予定でございます。

それと13ページになりますが、学校施設等長寿命化計画の策定ということでございますが、各地方公共団体は公共施設等総合管理計画に基づきまして、個別施設ごとの長寿命化計画を策定することになっております。教育委員会が所管する学校施設を、具体的にあらわす計画を学校施設等長寿命化計画というふうと呼んでおります。平成31年度、平成32年度の2カ年事業として計画をしておりまして、平成31年度は、調査業務を行いたいと思っております。平成32年度に、実施計画等を策定する予定でおります。主な中身なのですが、4つほどあります。1つ目は、学校施設の全体の把握、それと2つ目が老朽化状況の把握、3つ目が今後の維持・更新コストの把握、4つ目が整備計画の策定という4つの項目を計画に入れていく予定でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 概要書22ページのファミリー・サポート・センターの事業が予算化されていないということで、今後の対応についてお答えいたします。まず今後の対応といたしましては、現在「提供会員」ということで、支援をしていただける方、それから支援を受ける「依頼会員」の方同士の交流の機会というものが、これまで設けられなかったこともありましたことから、今後、まずはお互いが顔見知りになって、どんな内容とか、どんな時間帯での利用が可能かという意思疎通を図る機会をまず持つことが大事と考えまして、まずはそういう機会を設けるということで考えております。やはり預ける側も、預かる側も、全く相手のことを知らないという状態では、非常にお互いに不安を持つということがありますから、そういった関係が構築できた段階で、今後は、そのサービス利用に当たっても、当然、提供者と利用者間で金銭のやりとり等、内容のお話もございますので事務局がかかわる形で、今後はそ

れを実施した上で、将来的にサービスの提供が開始できそうかなという段階で、従来、加入の予算ということで考えていました傷害保険等の予算を要求するような形で対応していきたいと考えております。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） それでは私は、概要版の24ページ、市営住宅施設整備についてお答え申し上げます。こちらは実を申しますと、まことにお恥ずかしい話なのですが、平成30年度の予算編成時において、本来でしたら施設整備費じゃなくて管理費に計上しなくちゃいけない事項につきまして、施設整備費のほうに計上してしまったということが実際のところでございます。ですから、そちらに比べまして今年度はゼロというふうになっています。こちらは平成30年度に関しては、補正予算のほうで対応しております。

ここでちょっといい機会なものですから、施設整備費の定義というのは、新たな公営住宅をつくったり大規模修繕等をやる事業なものですから、通常の維持管理の保守につきましては、あくまでも管理費ということで、平成31年度は正規に戻しているという状況でございます。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私のほうからは、予算書106ページの障害児デイサービス負担金でございます。こちらは、設立当初はこの管内で事業所がなかったということで、那珂川町と那須烏山市で不足分を負担していたという経緯がありますが、今は運営状況も安定してきましたし、那珂川町にも独自で始まった事業所、それから那須烏山市にも、夏ごろにやはり同じような事業所を設立するというので、今回は負担金のほうを出さないということになりました。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 予算書111ページの補助金等の増減ということでございます。全体的な話になりますが、各団体等に補助している場合につきましては、その団体の事業の公益性や公共性、または適格性などを判断させていただいた上で、補助金等交付要綱に基づいております経費の交付率また終期の設定、あとはその各団体の財務状況なんかを勘案しながら判断させていただいておるところでございます。基本的には前年同額か、事業に見合った額を措置してございますが、事業効果が薄いものについては、削減させていただいております。

○議長（沼田邦彦） 7番矢板議員。

○7番（矢板清枝） 大体わかりました。各団体への補助金の部分だけ再質問させていただきたいんですけども、これは事業の内容がしっかりとできているか、できていないかって、算定基準というのは、どこの部分で決めていくのかというのが、はっきりと決まっているわけ

ではないのか、ちゃんと決まっているのか。そのものがわかりづらいというか、はっきりわからないので、各団体が持っている金額があるかないかでも決めているというか、そういうことも含まれているということが、今、課長さんが言われていたことになるのでしょうか。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 各団体への補助金の基準というのは、あくまでも事業費の何%とかというのは補助金交付規則にありますけども、事業費の中身の判断というのは、特に基準はございません。その団体でやっている活動が、どれだけ公益性・公共性に貢献するか。また、その団体によっては財源を持っている団体もございますので、そちらの自主財源で活動できないか、いろんな要素を勘案した上で判断させていただいております。（「了解です」の声あり）

○議長（沼田邦彦） 8番滝口議員。

○8番（滝口貴史） それでは通告させていただいたので、質問させていただきます。

初めに、概要書の総合政策課、庁舎整備基本構想策定事業74万5,000円について、具体的にどのように支出するのかを伺います。

次に総務課です。防災行政情報通信整備費1億2,300万4,000円、これについて整備計画の概要を伺います。

同じく防災行政情報通信管理費714万1,000円、この中で、私の勘違いだったら済みませんが、緊急告知ラジオというのは、「なすから情報局」と一緒に、多分セットでやっていたと思いますが、今度これは「なすから情報局」もなくなるのかというのを、あわせて質問させていただきます。

次に、まちづくり課の地域公共交通網形成計画で、先ほど村上議員も質問していましたが、デマンド交通は、今は土日の運行がない、また観光客にとって、利用しにくい運用となって課題も多いと思いますが、このことについて質問をいたします。

同じく、まちづくりチャレンジプロジェクト事業です。事業費の100万円は新規団体の補助なのか、それとも継続団体への補助か。また、これまでに補助を交付してきた採択団体の現況はどうなっているかを、お聞かせ願いたいと思います。

それと、転入若者は先ほどお聞きしたので、簡単に何組ぐらいの転入を見込んでいるのか、そのためにどのような周知を図っていくのかということだけお聞かせ願いたい。

それとJR烏山線利用促進事業費について、これは僕はすばらしいと思って質問させていただくのですが、烏山駅に新しいメロディーを導入するという話だと私は勝手に思っているのですが、どのような形で、どのような人にやっていただくのか。それと回数券の利用状況についても、お聞かせ願いたいと思います。このことについては、首都圏の駅では大物アーティスト

とか、そういう人たちも含めて独自性を出してやっているの、これは応援したい事業だと思いますが、お願いいたします。

次に商工観光課、先ほども堀江議員からも質問がありましたが、龍門ふるさと民芸館について550万円をかけて設計を行う計画となっておりますが、このコンセプトをお聞かせ願いたいと思います。

もう一点、ユネスコ無形文化遺産活用推進事業費664万円。これは文星芸術大学との連携協定に基づく、山あげ祭の芸題漫画パンフレットを作成するとこのことではありますが、具体的にどのようなものをつくり、どのようにPRしていくのか、お願いいたします。

同じく、ことしの山あげ祭に当番町の大屋台とみこしにGPS端末を設置し、リアルタイムにインターネット上に公開していたと思います。次年度は、この仕組みを拡充するということではありますが、どのような運用を考えているか伺います。

最後に上下水道課の下水道事業特別会計繰出金2億512万5,000円、これについて、準公営企業に該当する下水道事業に、2億円を超える一般会計からの繰出金が支出されています。きのうの渋井議員の質問も多分そうだと思うのですが、繰出金を減らすための改善策を改めて伺います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 庁舎整備基本構想策定業務74万5,000円ですが、内容につきましては、検討委員会の委員12名分の報酬3回分と、あとは大学の先生のアドバイス料ということで、24万円。5,000円は会議時の食糧費、ジュース代です。あと50万円は委託料としまして、今後、検討資料等を作成する場合、恐らく地図とか図面とかを突発的に作成するものがあるということが予想されますので、そちらの委託費として50万円を取ってございます。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうでは、まず防災行政情報通信整備の1億2,300万4,000円の事業費でございますが、これにつきましては前からお話ししていますように、市の防災行政無線にかわる事業としまして、那須烏山市内全域にIP通信網を使って情報発信をするというシステムでございます。一応、事業年度につきましては、平成31年度に入りましたら、すぐに業者選定に当たりまして、システム構築に大体3カ月から4カ月かかります。平成31年の秋ごろから、これを運用していきたいと考えているところでございます。これにつきましては、携帯電話等を持っていない方については個別受信機を配付しまして、全世帯で受信ができるようなシステムにしたいと考えています。当初予算では、個別受信機のほうは

1,200台ほど購入ということで考えております。また、この事業につきましては、起債のほうを対象として考えていますが、起債事業につきましては、平成31年度と平成32年度がございますので、平成32年度につきましては、個別受信機の買い増しのほうを考えていきたいと考えています。主なものについては、平成31年度のこの予算の中で勘定できるのかなと考えています。

それと、防災行政情報通信の管理費のほうでございます。こちらにつきましては、先ほど議員がおっしゃったように緊急告知ラジオ関係の予算が840万円ほどあったのですが、これが全て平成31年度から廃止ということで削除しております。この中には先ほど言いました、ミニ番組の番組料も含まれているということですので、そちらのほうもなくなるという状況でございます。またこの科目では、平成30年度には、県の防災ネットワークシステムの整備の工事負担金が995万3,000円ほど入ってございましたので、これが減額となって、この科目のほうでは大きく減額になっているところでございます。また、先ほどお話ししました新たなシステムの保守・管理料関係が、年間775万円ほどかかる予定でございます。平成31年度の予算については、この半額の387万7,000円ほどを、こちらの科目のほうで計上しているところでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、まちづくり課のほうの関係で概要書の3ページ、主に住環境の充実の項目になろうかと思いますが、その中でまず上から、転入若者夫婦世帯家賃応援補助事業費でございます。何組ぐらいの転入を見込んでいるかということでございます。旧制度におきましては、転入者夫婦世帯が8名であったことから、平成31年度におきましては、10世帯を見込んでおります。周知方法につきましては、お知らせ版・ホームページ、また「ふるさと回帰フェア」ということで、東京に出向いて周知活動を行っておりますので、そういう際に周知してまいりたいと考えております。

続きまして、地域公共交通網形成計画策定事業費のほうでございますが、これにつきましては、現在、まずデマンド交通のほうのアンケートをやっております。平成31年度は計画に向けた市民全体に対するアンケート調査を行いまして、公共交通に関して、どのような対策ができるか検討してまいりたいというふうに考えております。それは、平成32年度に策定してまいり予定で考えております。

続きまして、JR烏山線利用促進事業費でございます。まず平成30年度から、新たに実施しました回数券の利用状況でございます。2月末現在におきまして、トータルで98名の職員が利用しまして、そのうち169枚の回数券を使用しております。当初は200枚程度を予

定しておりましたので、おおむね予定どおりという形で進んでおります。継続というような形になります。

また新年度の事業としまして、発車メロディーということでございますが、これにつきましては、山あげ期間中、今現在のところ7月から1カ月間、烏山駅におきます発着メロディーに、山あげに使用する「おはやし」のメロディーを流したいということで、JRと今、調整しているところでございます。烏山駅以外にも、烏山線の各駅にそういった放送が流せるかどうかは、現在、JRと調整中でございます。

続きまして概要書の4ページ、まちづくりチャレンジプロジェクト事業費でございます。まず、100万円につきましては、今年度は50万円を限度として2団体を、まず予定しております。従来ですと、提案団体の内容を審査して実施しておりましたが、平成31年度につきましては、行政各課が持つ課題をテーマに、どのような課題がいかは、今現在、各課と調整中でございますが、市からのテーマの投げかけに応じて応募してきた団体に対する事業展開となってくる予定でございます。これは新規の団体になります。また、これまでの団体につきましては、平成27年度から3カ年継続してやった団体は昨年度をもって終了しておりますが、現在も活動しております。そのほかに、平成30年度をもって終了となる団体が2団体ございますが、平成31年度につきましても継続して実施する方向で、今は予定されているところでございます。それにつきましては、事業報告書をいただいております、その中で、審査をしているところでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 予算書75ページ、龍門ふるさと民芸館のコンセプトについて、お答えします。龍門ふるさと民芸館につきましては、平成5年に竣工されまして、建築後、約25年が経過している施設でございます。このようなことから、公共施設等総合管理計画に基づきまして、大規模改修による長寿命化を図ることとしております。改修に際しましては、環境負荷の軽減に向けた省エネルギー設備等の更新を行うとともに、高齢者や障がい者にも利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した改修計画を行う考えです。また、観光客が非常に多いという現状を踏まえまして、地域の活性化につながる地域創生事業の一環としまして、物販機能の強化による「にぎわいの創出」の拠点化を図っていきたいと考えております。詳細につきましては、今後の設計の中で検討を重ねてまいりたいと考えております。

次にユネスコ無形文化遺産活用推進事業費の中の、文星芸術大学との連携によるパンフレットの作成についてです。こちらにつきましては、毎年、山あげ祭に多くの観光客に来ていただいているところでございますが、公演の内容が難しくわかりづらいという御意見を、多数、

いただいております。このようなことから、文星芸術大学の大学生に御協力いただきまして、漫画で芸題の内容をわかりやすく紹介するA3判の両面カラーのパンフレットを作成することとしております。今回は、各町の主芸題として演じられている「将門」と「戻り橋」を漫画化しまして、栈敷席の購入者を初め、観客に無償配布する予定でございます。

次にGPS端末の設置についてでございます。こちらにつきましては、今年度当番町の大屋台に1台、みこし用に1台ということで、合計2台のGPSを導入しまして試験的な運用を行ったところでございます。次年度につきましては、みこし用と全6町の屋台に合わせた7台のGPS端末にて、位置情報を発信していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 佐藤上下水道課長。

○上下水道課長（佐藤光明） 予算書79ページの下水道事業特別会計繰出金につきまして、答弁いたします。2億512万5,000円を計上させていただいております。この額につきましては、平成30年度よりは、5,000万円ほどの縮減となっております。主な要因としましては、主に施設の維持管理費と施設の整備にかかる費用の抑制を行いました。今後、繰出金のさらなる縮減につきましては、今一度、下水道事業全般を見渡し、節約できるものはないかなどの精査をするとともに、きのうも御提言がありましたとおり、新しい取り組みにつきましても検討をしてみたいと考えております。

接続率アップの取り組みにつきましても、戸別訪問を初めイベント等へ出張しまして、PR活動等も続けてまいりたいと思っております。

管渠工事につきましては、平成31年度をもって一区切りとなりますので、今後もより一層、歳出縮減に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 8番滝口議員。

○8番（滝口貴史） おおむね了解させていただきましたが、何点か再質問させていただきます。

まず、総務課です。平成32年度に現在の防災無線がなくなる。その周知徹底が全然図られていないと思うんです。まずこれを図っていただいて、なくなるということを早目に住民に知らせていただかないと、大変なことになると思います。なぜかと言えば、携帯電話の運用と言いますが、携帯電話になってその運用が始まるよりも先に、なくなるということをちゃんと住民に知らせておかないと、本当に何をやっているんだという。我々、議員ももちろんですけど、行政にまですごく、今まであったものがなくなるということは、本当に大変なことだと思いますので、周知徹底を「お知らせ版」とかではなくて、今も南那須地区には特に流れていますが、放送の中でもこの防災無線は何月をもってなくなります、そういったような周知も

必要だと思いますので、ぜひ、よろしく願いをいたします。それにかわる方式、平成31年度の中途から始まるということですが、それと並行してやっていただきますよう、これは要望させていただきます。答弁は結構でございます。

次の「なすから情報局」とセットでやっていた緊急告知ラジオですが、いや、これはまた那須烏山市のPR方法がなくなるというのは、すごくもったいない事業だと思うんですね。緊急告知ラジオはいずれにしても、そちらだけを継続するという考えはなかったのか。セットだから仕方がないというんですけど、ラジオで那須烏山市をPRしているというのは、県内はもとより、県外の方も電波が入るところは、結構、聞いているんですね。今は全国的に携帯電話でラジオも聞けますので、そういった人も含めて、那須烏山市の情報を発信する大きなところだったので、これがちょっとなくなるのは、私は残念でなりません。また後々、考えていただければと思います。

まちづくり課は、了解させていただきました。

商工観光課、文星芸術大学と漫画を作成するというのですが、今、公演の内容を漫画にしてわかりやすくA3判の片面か両面かはわかりませんが、それを無償配布する。それはすばらしいことだと思います。ぜひとも、山あげ祭というのを理解してもらわないと、やはり、山あげ祭に行ってきたといっても、演目は見えていないとかそういうところもありますよね。ぜひ、これは拡大してほしいと思うのですが、来た人に駐車場で、「ここでやっています」と言うのと同時に全ての人に、買った人だけではなく、お金もかかることですが、ぜひとも芸題がこういうのをやっていますというのを配っていただければ、山あげ祭がどういうものかというものを、そこから広がって来年もまた来よう、そういうことの醸成につながると思いますので、これもよろしく願いをいたします。

以上、2点をお願いします。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） なすから情報局、REDIO BERRYの今までの放送内容に関しましては、まちづくり課のほうが、FM栃木さんと内容について検討してまいりましたので、私のほうからお答えします。

緊急告知ラジオのほうを終了ということで、一旦、けじめをつけまして、なすから情報局のほうは終了という運びになりました。平成31年度以降におきましては、シティプロモーション基本方針を、新たに見直す方針で考えております。その中で、どういった情報発信が市にとって効果的な発信になるか。認知度・魅力度アップも含めて、なすから情報局の手段も効果があるという検証がされたときには、もう一度、考えることがあるかもしれませんが、平成30年度いっぱいをもって、とりあえず終了という形になっております。

以上であります。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 文星芸術大学との連携によるパンフレットでございますが、こちらの現計画ですと、栈敷席の購入者に配付するというところで考えておるわけですが、可能な限り、欲しいという方には配布したいと考えます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 8番滝口議員。

○8番（滝口貴史） ちょっと残念でならないのですが、なすから情報局の効果検証をまだしていないということが、すごく残念なんですよね。もうこれは終わって来年度からどうするかっていうのを、ここの場で本当だったら、やめるけども次はどうするのか。もうこれは効果がなかったのをやめますというところを、この場を出してほしかったというのが、私の気持ちです。

以上です。答弁は結構です。

○議長（沼田邦彦） 9番小堀議員。

○9番（小堀道和） それでは、たくさん出しましたけど、ダブっていて個人的に理解したもの、それと自分の担当委員会のを除いて、特に聞きたいものに絞って質問いたします。そのほかは、個別に質問をしに行きますから、よろしくお願いします。

まず一点ですけれども、この予算概要書を中心に質問をいたします。1ページのところの結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実の中の、特別保育事業費4,990万1,000円です。これの内訳の中に病児保育事業についてありますけれども、これはとてもよい制度なんですけれども、利用者の実際の実態について、今、どんな状況かを伺います。

それと、これを使う親たちにとってみると、やはり当日の朝に預かってもらえるのが一番いいんですよね。これは、そういう保護者の要望がたくさん出ていると思うんですけども、この辺をなるべく希望に添えるようなことって何か戦略を考えると、そういうことがないのかどうか。少なくとも、なるべく遅い時間まで要望を聞くよというふうにすると、とてもこれはいい制度になるので、その辺の検討をしてもらえないかということについての見解を伺います。

3ページに観光の振興がありますけれども、今、ユネスコ無形文化遺産の活用推進事業費664万円で、今も滝口議員からも話があったりしたんですけども、この前のまちづくり研究会の報告会を聞いていて、これは僕の担当の部署かもしれないんですけども、うちのまちのPRのユーチューブ向け、これなんかを文星芸術大学とかその辺、またはまちおこしでもいいんですけども、検案件数が断トツ1位になるようなものを、つくれるんじゃないかなと思ったので。前からこれは私が一生懸命お願いしているんですけども、そういう考えはないのかどうか

2つ目です。

次に4ページのところの庁舎整備基本構想の74万5,000円、今、滝口議員の質問にありましたけども、この内容はわかったんですけども、実は庁舎整備の基金を毎年1億円近くためていますけども、これは総務課で、メモに「担当だがあえて聞きたい」と書いてあるんですけど。

○議長（沼田邦彦） 常任委員会をお願いします。

○9番（小堀道和） では、諦めます。ちょっと哲学的なことを市長に聞いたんですけども、後で行きます。

それと、5ページのところ。事務事業の見直しの中の項目で、サタデースクールをやめることにしていますけども、この見直しで、これはどんどんやめるとかいうことは進めてほしいんですけども、本件については、かなり熱を入れたりしてやってきた事業なので、いろんな効果もあったと思うので、これをきちんと振り返る見直しをしているのかどうかです。それをやめるに当たって、どんなふうにして継続的な効果を発揮できるかというのは、プロパーの先生を雇うということなんですけども、ちょっとニュアンスが違うので、この辺の考えをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

それと11ページですけども、農林水産業の振興の中で、元気な森づくり推進事業費933万2,000円、これも多くの先輩議員のほうからも質問があったと思うんですけども、これは本当に有効な事業なんですけども、本市において、これを使ってどんどんこんな事業を進めたいという申請の希望団体というのがたくさんあるのかどうかというのは、とても心配なんですけども、その辺、どういうふうに行政として働きかけをしているのかということも含めて、見解を伺いたいと思います。去年の申請状況とか、有効な活用ができるかどうかということも含めて見解をお願いします。

それと20ページの塩那台地も総務だけ。塩那台地は違うよね。塩那台地の土地改良区の総代選挙費が……。 （「これは総務ですね」の声あり）

次に22ページに、衛生費の中で風しん予防接種事業費753万円がありますけども、これをよく見ると、平成30年度は予算が12万円で、追加補正予算で21万5,000円を追加して、全部で33万5,000円ですよ。これが平成31年度では、753万円と大きくふやしています。この辺の具体的な内容と見通しを、ちょっとお聞きいたします。

それと、23ページに農林水産業費関係が出ていますけども、その中で委員会の運営費1,332万3,000円と大きな予算になっていますけども、新たに農業委員会が待遇改善も含めてスタートを切って、我々は大いに期待しているんですけども、平成31年度に彼らの提案で、新たに予算化されているものがあるのかどうか。何も変化がないということでは、これ

だけ待遇を改善したんですけれども、それに対して市民への説明責任というのは果たせないんじゃないかなと思うんですけれども、その辺の進みぐあいとか、それをお聞かせいただけますか。

それと、24ページに商業振興対策事業費380万円がありますけれども、平成30年度補正予算でもちょっと私は確認しましたけれども、平成30年度は1,700万円あるんですけれども、平成31年度は380万円で、余りにも消極的ではないかなという気がして情けないような気がするんですけれども、この辺も戦略的にどんなことを考えているのか、お願いします。

それと、24ページに土木費があります。急傾斜地崩壊対策事業費400万円がありますけれども、これは新たな事業なので、どんなことが考えられているのかを具体的に伺います。

それと最後、その他というふうにしたんですけれども、これはどこのあれかわからないんですが、本市の人口減少対策の最重要課題である結婚相談活動費なんですけれども、ことしはどこを見ても予算化が見つからないので、わくわくしないんです。結婚相談員メンバーも前向きに人選したのに一体どうなっているのかという、予算措置も含めて戦略を伺いたいと思います。これは、10年以上成婚の報奨金が出ていないということの前からわかっているもので、その辺も変化するののかも含めて回答いただきたいと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） それでは、まず最初の御質問の特別保育事業の中の病児保育にかかる件についてお答えいたします。利用の実績については、平成29年度は延べ人数で利用者は62名、那須烏山市が37名、那珂川町が9名、市内に勤務をされているその他の市町村の方ということで16名となります。平成30年度につきましては、直近の数字となりますけれども合計で76名、那須烏山市が41名、那珂川町が12名、その他の市内勤務という方で23名という内訳となります。傾向としましては、2年目ということで少しずつですが利用者はふえている状況かと思えます。

それと2点目の当日利用について、もう少し何かできないかということについてお答えいたしますが、基本的には毎年度登録ということでした上で、前日までの予約ということで、今はさせていただいております。その理由としましては、病児保育所のほうに看護師、それから保育士の配置が必要になる関係で、通常、病児保育が開かれていない状況ですと、それぞれの看護師さんは、例えば病院の外来のほうの受付業務等とか、保育士さんについては、病院内の託児所のほうの勤務というような形で、そういうシフトの関係もございましてところから、やはり当日となりますとなかなか厳しいのかなということや、実際に開設をしていたとしても、例えば予約の状況で満杯とかそういったものも、当日ですと厳しいのかなという部分もありますことから、なかなか小堀議員の御要望といいますか、その保護者の御要望には、なか

なかちょっとすぐにはお応えできないかなという部分がございます。利用時間についても、今のところは月曜から金曜までの午前8時から午後6時までということで利用していただいておりますが、この辺の部分につきましては、ちょっとここですぐにできますということは……。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 予算の概要書の3ページ、ユネスコ無形文化遺産活用推進事業費について、お答えします。こちらは、先日私もまちづくり研究会の報告会を見まして、宇都宮商業高校の生徒さんたちがつくったユーチューブの内容を見たところですが、非常にいいものができていると感じたところでもあります。これらにつきまして、平成31年度は文星芸術大学とはパンフレットの委託契約ということで調整をしておりますが、その後について、こういったこともできないかということを考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に予算概要書24ページ、商業振興対策事業費でございます。こちらにつきましては消極的予算という形ではございませんで、昨年までやっていたプレミアム商品券、こちらに1,500万円を計上していたところでございますが、これにつきましては国の方針によりまして、平成31年度につきましては、消費税対策の経済対策として市町村で行うということになりまして、今回の予算編成までには間に合っておりませんが、6月の補正予算までには対象者と経費等を計上しまして、補正予算で対応したいと考えております。1,500万円分が昨年度より減っているわけなのですが、こちらに創業者支援補助金として、プラス200万円を昨年度より増額という形になっておりますので、御理解願いたいと思っております。

○議長（沼田邦彦） 田代教育長。

○教育長（田代和義） それでは、サタデースクールの御質問について、お答えしたいと思います。まず、申しわけありませんが、概要の5ページにサタデースクール事業については、学力向上対策としてスーパーティーチャー育成事業に転換とありますけれども、サタデースクールとスーパーティーチャーは並行してやっている事業でしたので、転換して1つにするという意味ではございませんので、ちょっと書き方がこちらで間違っておりましたので、大変申しわけありませんでした。

来年度の予算として、サタデースクールの予算は計上してございません。ただ、議員の御質問のほうにありましたように、今、見直しはどんどん実施してほしいということでありますし、これまでの議会からの御意見にも、サタデースクールを、いわゆる学習ばかりでなくて運動系もきちんとやったらどうかという御意見も何回も伺っておりますので、宇都宮大学と交渉しなければなりませんけれども、土曜日にやはり同じように部活動の指導者として、宇都宮大学の学生を招聘したいと。ただ先日、宇都宮大学のほうにお伺いしたところ、今度は、運動関係は教

育学部の学生だけではありませんので、その募集について早目にお互いに打ち合わせをしながら、それから募集方法等を考慮していきたいと。それから宇都宮大学のほうからの要請として、ぜひ学習関係も少しは残してもらいたいというようなことが出てきております。一応、方向性としては、部活動の顧問プラス指導員としての宇都宮大学生を招聘したいと。それについては各学校、2中学校ですから、校長からどのような部活動に対して、そういった学生が欲しいかというのを確認する作業を4月の校長会から始めて、5月にはもう打ち合わせを宇都宮大学と毎年しておりますので、そのような形でしてまいりたいと。あと学習関係については、宇都宮大学からの強い要望もございますので、中学生2年生ないし3年生を対象に、今度は1カ所に集めることができませんので、南那須中学校と烏山中学校に一クラスないし二クラスで、今までのようにコースを3つも4つもつくれませんので、基本コースだけと。それから足については、今までのサタデースクールの予算の半分以上がバス代というような形になっておりますので、それについては、やはり同じような轍を踏まないようにということで、土曜日に関しては、部活動の子供たち用のバスが走っておりますので、それに乗れるような範囲でのクラスを設定したいということで、特段、スクールバスの運用を改めて予算計上しないで済むような形にしてまいりたいと、そのように考えております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 元気な森づくり推進事業費について、お答えいたします。活用状況につきましては、平成20年度から平成29年度までの10年間で、総額1億8,500万円の交付金をいただいております。市内の55カ所、約287ヘクタールの里山林を整備いたしております。平成31年度の予定は、新規整備箇所が現在のところ要望が2カ所、管理と行う整備が16カ所という予定でございます。どのくらいの要望があるかということで、毎年、個人の申請ですとなかなか事業の採択がいただけません。あくまでも複数ということです。大体、自治会単位でありますとか、地域の団体でありますとか、そういうふうなグループを対象で受け付けておりますが、現実的には、問い合わせも含めて本当に3件、5件あるかなというぐらいと状況はそういうところです。確かに農政課としても、大々的に広報したり、そういった活動をしていないところは現状でございます。県のほうの予算も限られるという部分は最終的にはありますが、この辺の推進活動については、よくよく係の中でも検討してまいりたいと思います。いっぱい要望があった場合に、どういうふうな優先順位にするかということも非常に問題もありますし、これまでいろんな状況も踏まえて慎重に扱ってきた内容でございます。当然、今、申し上げたような現状把握に努めて、計画的な推進を図ってまいりたいと考えております。

農業委員会の運営費でございますが、新たに予算化したものは現実的にはありませんが、目に見えない部分で、農業委員さんについては報酬をいただいておりますから、その報酬の中で、当然、委員あるいは推進委員の活動を展開するわけでございます。現在のところ、平成30年度の活動を御紹介いたしますと、まずは遊休農地の利用状況調査ということで、7月から9月にかけて、各担当地区の調査を行っております。それによって遊休農地の発生防止と解消に努めているという状況でございます。それから、担い手への農地集積活動と。ここが一番、市でも期待をしているところでありますが、今年度は12月から1月にかけて、市内30アール以上の農家を対象に戸別訪問をしていただきました。その結果を現在、集計をし、それをここの春から来年度にかけて本格的に地域におろして、いわゆる農地集積のマッチング活動、そういったところに入ってまいります。委員さんは、やはり3カ年の任期でありますので、ぜひとも2年目から実績に結びつくように、我々、事務局も一緒になって推進を図ってまいりたいと思っております。まず平成31年度は5カ所ほど、今は案として地区を選定して、モデル的にマッチング活動を行っていきたいと思っております。当然、日中を問わず、地域の要望に応じて、地域に入っていきたいと思っております。それがだんだん全地区に波及できますように、進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） では私のほうは、予算の概要書の24ページ真ん中辺の土木費の河川総務費、急傾斜地崩壊対策事業費について御説明申し上げます。こちらは単純に、平成30年度の当初と平成31年度の当初を比べて、平成30年度がゼロで、平成31年度が400万円ということなのですが、こちらは毎年そうなのですが、例えば、平成30年度の当初予算の編成のときと、平成29年度の最終の補正予算の時期がダブりますので、これは実を申しますと、平成29年度の補正予算で3,000万円の事業費が確定していたしましたので、当然、平成30年度がゼロということになります。済みません。前段に申し上げますが、こちらの事業につきましては繰り越しのときに説明したと思っておりますが、栃木県が行っている急傾斜地崩壊対策事業ということで、私どものほうの山あげ大橋から、東側の崖の崩落防止を事前にする事業ということで、旭表I-A地区ということになるのですが。こちらは実質、平成30年度がゼロになっているんですが、これは平成29年度の補正予算でもらいまして、そのまま全額繰り越しということになっております。

今回、平成31年度の400万円という事業費なのですが、こちらは栃木県の事業費が4,000万円ということで、単純に10%の受益者負担ということで、400万円というくりになっております。内容は本工事を推進するということです。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私のほうからは、概要書の22ページ予防事業費の風しん予防接種事業費についてでございます。こちらは先ほど、興野議員のほうにもお答えしましたが、追加的な対策という形で、ことは出されていますが、国からも、まだきちんとした予算の概要が来ておりませんで、うちのほうでおよそという形で見積もったものと、あとは今まで、細々とですけれども、19歳から49歳以下の妊娠を予定する女性とその配偶者には、風しんの予防接種というのをやっておりました。そこに追加して予算を組んで、先ほど言ったような人数で足しておいて。システム改修とかも想像されますので、また後で追加はあるかとは思いますが、そんな予算になっております。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 最後になりました、その他の案件でございまして、結婚相談所の活動費について予算書のどこに出ているかということでございますが、先ほど、荒井議員の御質問にもお答えしたとおり、予算書の91ページ中ほどのところにあります若者交流事業費、その中に必要な経費を計上してございます。議員さんがおっしゃるように、結婚推進委員さんにつきましては、昨年度、メンバーのほうの入れかえも図りまして若い方々にも入っていただいで、活動していただいているところであります。ここしばらく、成婚の報酬が出ていないということは事実でございます。どちらかといいますと、今は推進委員さんが個人情報を持ってお宅を訪問するという、そういった方法がなかなかないということで、同じくこちらの予算書のほうの111ページにあります、県のとちぎ結婚支援センターというふうなところで、パソコンによりますマッチングシステムで個別に情報を公開することなく、そういった相手の方を見つけられるというシステムがありまして、本市でも40数名の方が御登録されているところでございます。ですので、そういったところの推進と、それから先ほどもお答えしたとおり、今までやっていた出会いの場の提供事業等の中身の見直しを図りながら、一組でも二組でも成婚できるように、努力をしていきたいというふうに思いますので、御了解願いたいと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 9番小堀議員。

○9番（小堀道和） 大体、答えが来たので、その答えどおりに行くように善政してほしいという要望です。

それと最後に1つだけ、健康マイレージを聞くのを忘れたので、この健康マイレージは、今までいろいろやってみてふえているのかということと、今、獲得すると500円券か、または、わくわく商品券じゃないんですけども、選ぶんですよね。そのどちらにするんだということなんですけども、これは僕のほうは、このわくわく感をもっと追求したいので、500円全員

と、あとは抽選というほうが、みんなはもっともっと盛り上がるんじゃないかなということなので、それだけ一言「はい」というふうに答えてくれて、おしまいにしたいと思うので、よろしくお願いします。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） マイレージの人数については、平成29年度が52人、平成30年度が71人ということで、少しずつ増加しております。3年目を迎えるということで、その内容については、健康づくり推進協議会のほうで検討をしているんですけども、次年度は若い人の動機づけとして、チームで参加をする人にポイントをつけるというような話になっております。議員のお話もありますけれども、市民の意見等を酌みながら順調に運営していきたいと思っています。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 9番小堀議員。

○9番（小堀道和） 個別に何度でも伺いますので、よろしくお願いします。

以上でオーケーです。

○議長（沼田邦彦） ここで暫時休憩いたします。

再開を午後2時10分とします。

休憩 午後 1時58分

再開 午後 2時10分

○議長（沼田邦彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

10番相馬議員。

○10番（相馬正典） 10番相馬です。今までといろいろかぶってしまうので、その分は省いて質問させていただきます。概要版を中心にお願いしたいと思います。

まず5ページ、総合政策課になるかと思うのですが、厳しい財政の立て直しに向けた取り組みの中にある財政健全化の項目の中に、将来負担比率の減少を、平成31年度末までにゼロ化を目指すとありますが、過去5年の数字を、わかったら教えていただきたいと思います。

続いて6ページの、やはり総合政策課の予算の規模でございます。一般会計3.4%の減と、昨年と比べまして減少しました。これは大変評価できるというふうに思いますが、人口減少に対して、次年度以降の予算規模についての取り組み方、考え方をお教えてください。

またそれに比して、特別会計、水道会計予算の圧縮が図れないかどうかを伺いたいというふうに思います。

あと11ページ、まちづくり課で、地域おこし協力隊事業費、先ほども答弁いただきました

中に、3名の方の隊員の今後のあり方というふうにありました。以降について、何かわかっていることがあったら教えていただきたいと思います。それと、去年は採用を見送ったということですが、どんな理由があったのか教えていただければというふうに思います。

それから11ページの商工観光課の雇用対策事業費の中に、合同就職説明会・面接会経費等という35万5,000円。市では、この事業に対して採用されたという実績人数を把握しているかどうか。把握しているのであれば、その人数について伺いたいというふうに思います。

概要版ですと12ページ、まちづくり課です。先ほどから何回も出ているのですが、転入若者夫婦世帯家賃応援補助金の内容はわかりました。ただ補助の対象なのですが、若者夫婦というのはどのぐらいまでの方をいうのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

それと同じく13ページで、やっぱりまちづくり課なのですが、塵芥収集処理費及びし尿処理費の中の主な事業内容の中に、施設整備基金積立費を含むとあるのですが、それがちょっと読み解けないものですから、その金額がわかりましたらば教えていただきたいと思います。

あとは概要版の18ページ、総合政策課です。基金残高なんですけれども、一般会計で平成30年度に比して、見込み額が2億9,000万円ほどの減少が予想されています。6ページの財政調整基金残高の推移においては、例年に比べて2億円ほど大きく減少していて、それを一般会計に繰り入れるのでしょけれども、何か理由があるのかわかりましたら教えていただきたいと思います。

それから、予算書になります。商工観光課で、商工振興資金貸付事業費、1億8,715万円があります。現在、遅延もしくは貸し倒れみたいなものはないのか。また、過去においてそういう事例はないか伺いたいというふうに思います。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） まず、概要版の5ページでございます。将来負担比率を平成31年度末までにゼロ化を目指すということでございます。過去の5年間の実績ということでございますが、平成25年度43.2%、平成26年度32.3%、平成27年度24.9%、平成28年度19.9%、平成29年度8.9%、平成30年度につきましては出納閉鎖後の算出になりますが前年よりは下がっているということで、随分、下がってきているということでございます。これらの原因につきましては、返すよりも借りるものをなるべく抑えたということで、年々減少させていったことで、将来負担比率が減少していったというふうに御理解願いたいと思います。

あと、概要版6ページの予算規模につきまして一定の評価をいただいて、ありがとうございます。次年度以降の予算規模につきましては、なかなか難しいところでございますが、今年度

の予算要求段階におきましては、予算109億4,000万円でございますが、予算要求時点では117億円弱の予算要求でございました。約7億円の削減を図ったということから考えれば、なかなかそれをさらに増して減らしていくというのは、現実的に非常に難しいかなと。また、老朽化した公共施設等の修繕・取り壊し等を考えると、多くなります、少なくなりますとなかなかこの場では言えませんが、相変わらず厳しい状況が続くのかなというふうには理解してございます。

あと、概要版18ページの基金の残高になります。確かに議員がおっしゃるように、2億9,000万円ほど減少してございますが、例年、当初予算の財源調整ということで、2億2,000万円程度の財政調整基金の繰り入れをしてございますが、今からでいえば、平成30年度の決算剰余金につきましては、その半分を財政調整基金等に積んでおりますので、そちらを毎年繰り返しということになると思っておりますが、減らしたままではないということで、御理解願いたいと思っております。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、概要版11ページの地域おこし協力隊の事業費関係です。まず、現在の3名の今後の方向性なのですが、今、事業計画について民間企業と一緒に詳細を練っているわけなのですが、大きく分けていいますと、1人は飲食業の方向、もう一人は総合的学習環境の整備、もう一人は情報発信、そういったところの方面で活躍するということで、今、検討しているところでございます。

なお、昨年度の採用を見送った経過でございますが、1期生に関しましては、何もない状態で1年目でスキルの充実、2年目に方向性を探る、3年目で事業計画に向けた取り組みを行っていくという3年間をかける予定だったのですが、平成30年度は、1年目のスキルについては十分持ち得た方を採用したいということから始まったので、そういった方が該当しなかったということで、見送った経過でございます。平成31年度の募集に当たっては、それも含めながら、さらに特化した事業に対応できるような地域おこし協力隊について、現在、検討しているところでございます。

続きまして、12ページの転入若者夫婦世帯家賃応援補助の関係なのですが、先ほど来、対象年齢についてはお答えしていなかったもので、改めてお答えしたいと思います。現行制度につきましては、40歳以下の夫婦世帯及び単身世帯で3年間実施しておりました。その内容を見直した結果、より多く夫婦世帯、子育てのある人に視点を置いたものにしたいということで、平成31年度からは、40歳以下は変わらないのですが、どちらかが40歳以下の夫婦世帯に限定して、対象範囲は少し狭まったということになります。そのかわり子育て加算というのを創設しましたので、家賃補助により子育ての資金を回せるような環境整備を行ったというこ

ろでございます。

なお、もう一つあります概要書13ページで、まちづくり課となっておりますが、し尿処理関係につきましては、こちらはまだ組織編成されておりませんので、環境課のほうの所管になりますので、まちづくり課としての回答は控えさせていただきます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 概要書13ページのところで、塵芥処理費・し尿処理費のそれぞれの積立金の額ということでございますが、塵芥処理施設につきましては3,866万9,000円、し尿処理費につきましては1,587万円でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 概要書の11ページ、雇用対策事業費についてお答えします。こちらの合同就職説明会・面接会等は、平成25年度から行っておりまして、平成25年度で7名の就業がありました。平成26年度が19名、平成27年度が21名、平成28年度が7名、平成29年度が18名、今年度につきましては、前半の9月に行った事業で14名、2月15日に行った説明会においては、採用がまだ未確定なので集計しておりません。合計で、86名が就業したということになります。

続きまして予算書73ページ、商工振興資金貸付事業費のほうでございます。こちらにつきましては、毎月各金融機関より残高報告がございます。その中で支払いがおくれているものは、延滞者ということで把握できるような形になっておりまして、1月末現在で延滞者が3名いるところです。そのほか代位弁済をした方ということで、ここ数年ですと、平成26年度に1件、平成27年度に4件、平成28年度に2件、平成29年度に2件ということで、年間数件程度は出てきている状況でございます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 10番相馬議員。

○10番（相馬正典） おおむね、わかりました。では何点か、ちょっと聞きます。

予算の規模なのですが、市長にも何回も聞いて申しわけないんですけども、市長としてどんな考えがあるか、ちょっとお伺いできればと思います。

それと、まちづくり課の地域おこし協力隊につきましては、昨年的一般質問でも申し上げましたとおり、特定の分野に特化した専門家を、人材を募集していただきたい、採用していただきたいというふうにお願ひしたところ、そのような方向で進んでいるということですので、ちょっと安心しました。ありがとうございます。

あともう一点、環境課さんの先ほど積立金の、来年度のを聞きました。今まで、どの程度の積み立ての残高があるのか、おわかりになれば教えていただければと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 川俣市長。

○市長（川俣純子） 今まで望んできたように、予算規模は縮小させていきたいのですが、何かをやめることになって解体したり、その都度、設計をしたり、いろんな意味でのやめることにもお金がかかることがあるので、一概にいきなり下げるということはなかなか難しい。皆さん、お一人おひとりが、何が欲しいというものも違ってきますので、全員一致でこれはやめましょうというのは、なかなか見つけにくいのかなと思っています。新しい事業に対しましても、それが最終的には金額が下がるかもしれませんが、導入するに当たってお金がかかることが結構多いので、一遍に下げるというのはなかなか難しいと、今、自分の中では実感しております。ですが、無駄な経費は減らしていくよう努力したいと思っておりますので、御協力、またアイデアのほう、よろしくお願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 今、各年度の全ての積立金の額を持ち合わせておりませんので、後で、この場で報告したいと思えます。失礼します。（「了解しました」の声あり）

○議長（沼田邦彦） 11番田島議員。

○11番（田島信二） 予算書のほうから、質問いたします。

12ページ、軽自動車税。これは今、軽四輪のトラックと乗用車が黄色いナンバーのわけなのですが、白いナンバーのものが走っています。その白いナンバーも軽自動車と同じ税なのかなと思いますけど、それをよろしくお願いいたします。

あと、43ページ。交通安全施設整備費126万6,000円。どのような対策をしているのか伺います。

あと、45ページ。自衛官募集事務費ですか、3万8,000円。これは自衛隊さんに何人ぐらい那須烏山市から行っているのでしょうか、伺います。

あと、71ページ。松くい虫防除事業50万円。これは50万円ぐらいで、松くい虫の退治はできないと思うんですけど、どんどんやっていただきたいと思えますが、伺います。

あとは、77ページ。道路整備費1億5,690万円。何カ所でどの地域ですか、伺います。

あと、新食肉センター新設整備費補助金429万5,000円。これは前年度よりずっと多くなっているのですが、何で多くなったのか伺います。

あと、108ページ。狩猟・わな免許取得費用補助金5万円。これは、何人ぐらい受けているのか伺います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 水上税務課長。

○税務課長（水上和明） ではまず、最初の質問にお答えいたします。特別仕様のナンバープレート、いわゆる白ナンバーを装着したものと、通常の黄色いナンバーの税額の違いということですが、税額に違いはございません。同じということになります。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうでは、まず交通安全施設整備費のほうでございしますが、こちらは主にカーブミラーの設置にかかる費用でございします。修繕関係で5基、新規の設置で3基の予算計上をしておるところでございします。

それと自衛官の募集事務費でございしますが、こちらは昨年度は3名、男性2名、女性1名の3名。今期も3名の方が入隊する予定でございします。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） まず、松くい虫防除事業についてでございしますが、50万円じゃあ足りないんじゃないかという話であります。毎年、実施箇所は、主に小木須地区に今は入っております。松くい虫の事業については、衛生伐といって間伐等を行いますが、これが県の事業で行っておりますので、県のほうの予算配分も実はございします。そういったことで、50万円ということでの当初予算でございしますが、大体、1立方メートルあたり1万5,000円が衛生伐にはかかるということで、見積もっております。約36立方メートルということで、小木須のほうで、ことしも行う予定でおります。

また、まだ予算は措置しておりませんが、毎年、行っておりましたのは、樹幹注入事業ということで木を若返らせる、長く保たせるという事業で、例えば、市内の学校等における松とか、こういったことも過去に行ってまいりましたが、樹幹注入すると、5カ年効くということですから、平成31年度は、まだ実施する学校等はございませぬので、今年度当初予算は50万円ということで、御理解いただきたいと思ひます。

次の新食肉センター新設整備ということで、これは芳賀町の旧畜産試験場のところで、今、平成32年度完成に向けて行っております県の事業でございしますが、この整備補助金については、平成29年度から平成31年度までということで、3カ年で負担をしているものでございまして、平成29年度には、出資金を本市では700万円出資をいたしまして、整備補助金としては平成29年度に95万9,000円、平成30年度が284万6,000円、平成31年度が最終429万5,000円、合計で810万円の整備補助金の負担が市町村会で決められておりますので、この3カ年で負担している金額でございします。この補助金の算出基準につい

ては、飼養頭数割とか人口割とか、そういったものが勘案されていますので、御理解いただきたいと思います。

次に狩猟・わなの免許取得費の補助金5万円の交付対象の人数でございますが、当初予算では、1人当たり5,000円の補助を見込んで、10名程度の予算を計上いたしておりますが、大体取得するのに1万円ちょっとかかると思います。その関係で、約半分ぐらいは市で補助をしておりますが、過去を振り返りますと、平成30年度は2件ございました。平成29年度が6件、一番多いときで、平成26年度で7件ございました。10件の予算を取っておけば、毎年、推進できるかなということでの予算ですが、この事業は平成24年度から施行したものでありますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） それでは私のほうから、予算書の77ページ、下から2行目の道路整備費1億5,690万円の内訳について回答いたします。こちらは、これはあくまでも当初ベースなのですが、国の交付金の事業で4カ所、あとは単独事業として4カ所、合計8カ所をエントリーさせていただきました。具体的に箇所名はいいですか。（「いいです」の声あり）

○議長（沼田邦彦） 11番田島議員。

○11番（田島信二） 新食肉センターのことで伺いますけど、処理頭数というのは何頭ぐらいになるのでしょうか。豚と牛とあると思いますが。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 私も頭で資料を全部は覚えていませんが、先ほど申し上げた整備補助金の飼養頭数を参考にさせていただきますと、本県の飼養頭数であります。県のほうではじいている頭数でございますが、本市は牛で約1万4,300頭を、豚では約6万6,000頭という頭数でありまして、全体ではちょっと集計しておりませんが、3カ所の県内の食肉センターが1カ所に新しく集まって処理をするというセンターでありますから、本当に県内の牛・豚を全部処理するというようなセンターでありますので、御理解いただきたいと思います。（「了解です」の声あり）

○議長（沼田邦彦） 12番渋井議員。

○12番（渋井由放） それでは、概要書と予算書との両方から少し。

まず予算書の91ページ。人生の並木路の管理育成費ということで45万円。この「人生の並木路」は、あちらこちらにあったのを整理してやってきたということで、この45万円は、多分いろいろ切ったりして道路の邪魔にならないようにしたりするんだと思うんですけども、もうこれ以上の縮小はないのかどうかです。

あと今度は概要書から、防災行政情報通信整備費ということで、何人かの議員さんからも話がありました。ラジオで今までやっていたものを新たに直すんだよと。今までは防災行政無線でやっていたものを、1本化するんだよというような話だったかなと思います。そうするとラジオはもう使わなくなるのか、鉄塔のようなものがございいますから、そういうものは使わなくなるのか、その辺のところを確認したいというふうに思います。

次は13ページに、やすらぎ荘の解体工事というのがございいます。これは、2,000万円ぐらいあるんですけども、補正予算で設計費を出して解体すると。私の記憶というか考え方としまして、消費税が上がるもので、補正予算で早いところ解体費を計上し、そして早急に解体するんだというようなことだったかなと理解しているところなんですね。その解体の発注は、いつごろになるのかということ。

そして今度は18ページになるんですけども、市有施設整備基金というのがございいます。15億4,000幾らということで、今回は4,000万円ぐらい繰り出して。多分、今言った、やすらぎ荘の解体にこれを繰り出すというような塩梅なのかなと。この整備の概念、例えば修理や新築をするとか、道路を新しくつくとかっていうのは、一般的に整備。あと修理・修繕もするということも整備だと思うのですが、解体という概念が、解体して新しいものをつくるんだというのなら整備に当たるだろうけども、解体してそれまでなんだということで整備という概念。ただこれは市の基金ですから、市の考え方で、整備というのはこういうものなんだという決まりがあるのかどうか。その辺がなければ解体でもやむを得ないのかなというふうには思っています。

あと、106ページの社会福祉協議会運営補助金ですか。1,030万円ほど安くなっていますね。来年度は3,000万円の予算になっていますけれども。これは、なぜこのように下がったのかなということ。

あと、109ページに、消火栓の維持管理負担金。これが200万円で50万円ほど下がっております。次に設置工事負担金というのが110万円ほどあるんですけども、負担金ですから、これは多分どこかに負担する。上下水道課にでも負担するんだと思うのですが、何で50万円、消火栓維持管理費が減ったのか。何かたくさんつくっていけば、そういう維持管理費がふえるのではないのかなという認識があるというような意味合いでございいます。

あとは、111ページの学校給食米消費拡大推進費補助金というのがありまして、93万4,695円が今年度、そして平成31年度はゼロということになっておりまして、何かこれは代替するようなものがどこかにあるのかなと思いましたが、その辺を逆にふやして、お米をどんどん食べてもらわないと消費拡大につながらないのかなということを思いまして、以上を質問したいと思います。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私のほうからは、御質問いただいたのが予算書91ページの、人生の並木路管理育成費かと思われま。おっしゃるとおり、今年度は工業団地入り口両側に植わっていたものを、特別支援学校の生徒さんとかが通る場合に支障がある、及び一緒に団地に出入りする大型トラック等が頻繁に通るため、交通安全上、何とかしてくれという御要望がありまして切らせていただきました。現在、残っておりますところが鴻野山の大溜、それから曲田の、いわゆる小貝川の源流の溜池というところに2カ所、それから小河原のほうに1カ所。それらを伐採し縮小するという考えは、現在のところはございません。ですので、事業費等につきましても、今回、借地がありましたのが、この工業団地の入り口のところですので、あとは草刈り等の回数を減らすとかそういうことになってしまうので、削減については、ちょっと難しいかなというふうには思っております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうで、まず一点目の緊急告知ラジオの関係なのですが、こちらについては、今後、避難所等に使う公民館等に配付して、そちらのほうで有効に活用していただければというふうに考えているところでございます。

あと、防災行政無線の鉄塔等の撤去につきましては、来年度いっぱいそのまま放送は行うということにしまして、平成32年度にその廃止に向けて検討するわけでございますが、その中でサイレン吹鳴のほうに使える部分については、そちらのほうに使う。また使わない場所については撤去ということで、今後、検討していくところでございます。

次に消火栓のほうでございしますが、水道工事等に伴いまして、消火栓の修繕等がかかるものについては、消火栓の維持管理負担金のほうで上下水道課のほうに支払うということになります。それと、消火栓を設置するものについては、消火栓の設置にかかる工事負担金ということで、そちらのほうで上下水道課のほうに負担をするということになっております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私のほうからは、概要書の13ページ、やすらぎ荘の解体工事についてでございます。こちらは都市建設課と相談して、早急に取り組みたいというふうに考えております。

それから、予算書の106ページの社会福祉協議会の負担金についてでございます。こちらは、1,000万円減ってはいるんですけども、介護のほうの特別会計事業で、生活支援コーディネーターという部分で3人ほど人件費を見ておりますので、減ったというわけではなく

て、補助金を該当にしたということでございます。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 概要書18ページの市有施設整備基金についてでございます。解体が整備かという問いだと思いますが、公共施設等総合管理計画の中では、やすらぎ荘の解体というものを計画してございますので、広義的な整備というふうに御理解いただければありがたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、予算書の111ページになります。学校給食米消費拡大推進費補助金でございますが、今回は93万4,695円の減ということでございますが、学校給食の場合は、今までは米消費拡大というようなことで、月に1回ということでも年間、8月がないので11回というようなことで、本来はパンとかパン以外のものを提供していたところを、米を使う給食ということでも11回の米を使った給食を行っておりました。当初は、これは補助金事業というようなことで行っていて、現在は単独事業になったというようなこともありましたので、平成31年度から、そちらのほうは取りやめたという状況でございます。

○議長（沼田邦彦） 12番渋井議員。

○12番（渋井由放） それでは、再質問をさせていただきます。

人生の並木路は、あと残りが3カ所ほどあって、これを維持していこうというようなことだということで、これは了解させていただきました。やすらぎ荘の解体も早急ということで、これを了解させていただいて、あと、市有施設整備基金は市のほうで持っているものなので、柔軟に考えて対応をしていくというようなことだと、今、思ったわけなんですけれども、これから消費税が上がるということがございます。解体するものがいっぱいあって、自分が設計すれば消費税はかかりませんが、消費税がかかるのが目に見えているということであれば、こういうところから繰り出して、わずか2%といっても、例えば1,000万円で20万円ですから、4,000万円あれば80万円と、きのうもお話ししましたけれども、積んでいても0.025%とかそういうことなので、これをうまく利用できればいいのかなと思いましたという意見だけ言わせていただければと思います。

その答弁については結構ですから、以上で質疑を終わらせていただきます。

○議長（沼田邦彦） 13番久保居議員。

○13番（久保居光一郎） それでは、何点か質問させていただきたいと思います。

まず、予算概要書のほうから質問をしていきたいと思います。

3ページ、商工業の振興について。継続事業として空き店舗対策新規出店者開業費用支援事業費100万円が計上されております。これは継続で何年間かやっているわけでございますけ

れども、現在までのどのくらい出店者があったのか。また、今の状態はどんな状態なのか、その概要についてちょっと伺いたいと思います。

それから2番目は、同じくその下の継続事業、企業誘致事業費1億7,451万4,000円が計上されておりますけれども、やはりこれについてもこれまでの成果、それから企業誘致をしたわけですから、それに関する固定資産税等といますか、そういう税収はどのくらいあるのか。これだけの財源を投じて、それに見合うだけの費用対効果が生まれているのかどうか、その辺を簡単に結構ですから伺いたいと思います。

それから3点目はやはり同じページで、観光の振興の拡充の部分です。417万5,000円、市内各種の行事を連携して実施する「市民秋まつり」や、まちなか観光ルートの拡充により、観光客の誘客や地域活性化を強化し、観光の振興を図るとあるのですが、どのような行事を連携させて観光客を誘客して活性化を図るのか。そのような具体的な構想と戦略、それからどこが母体になって行うのか。

また、昨年の市民秋まつりは、商工会祭や烏山城築城600年の記念とあわせて行いましたけれども、ことしはどのように考えているのか。それについて、これは市長が発案されているのかなというふうに私なりには感じておりますので、市長のほうから、もしお答えいただければと思います。

4点目は、予算概要書の11ページでございます。農林水産業の振興について。これは、同僚議員から冒頭に質問がございましたので、今までもずっと、この農林水産物の開発事業費50万円程度を継続して出してこられたと思います。また、雇用創出事業をやられておりましたけれども、今年度で終わりになるんですかね。そういう中で、幾つの特産品を開発しております。その開発した商品は、今どのような販売ルートに乗っているのか、また何点ぐらいあるのか、売上実績はどうかとか、その辺についてお伺いをいたしたいと思います。

5点目は、同じく概要書の12ページ、デマンド交通運行管理費4,084万4,000円。これも同僚議員が質問されましたので、私は簡単に質問したいと思うのですが、利用者はどのくらいいるのか。ふえているのか。また予約委託料は、ほかの市町村と比べて高いのかどうかということについて、お聞きしたいと思います。

6点目は、これは予算書のほうに入らせていただきます。27ページ、商工費委託金、長峰ビジターセンター管理業務委託金だと思うのですが、37万5,000円とあります。これは恐らく県の所有物だと思うのですが、一方、予算書の75ページには、長峰ビジターセンター管理費65万8,000円とあります。これは委託金を県からいただいて、管理費は65万8,000円ということは、28万3,000円の部分は、市が支出することになっているのかどうか、それについてちょっとお伺いをしたいと思います。

7点目は予算書の75ページ、観光協会支援事業費1,190万円というふうにありますけれども、観光協会は、私も以前に入っていたことがあり、実際にやったこともあるのですが、今はどのような事業をやっておられるのか。観光協会の支援費といいますか補助金は、私も調べてみると毎年、右肩上がりに伸びていっているような気がするんです。これまでの平成17年度の合併当初から、平成30年度までの14年間で、補助金は1億2,620万5,468円を支出しております。またそれと並行して、イルミネーションの事業もやっていたわけでありまして、これについても1,550万円、それから今年度の予算には、補助金として1,190万円の予算が計上されておりますけれども、観光協会はどのような活動をしているのか、主な活動があったらお答えいただきたいと思っております。

それから8番目は、これは一括で質問したいと思うのですが、観光施設費の山あげ会館運営費、これは指定管理料ですが、来年度は1,782万円が計上をされております。それから同じく山あげ会館の施設整備費は、今までのやはり合併当初から平成30年度まで、私は行財政報告書とか決算書で調べました。するとこれの改修費・修繕費等の合計は、平成30年度は、これはまだ予算書には計上がなかったのですが、これを含めなくても、今までに2億1,132万円を使っておられるわけでありまして。そうすると、山あげ会館の改修費を含めて、それから委託料を含めて、合わせると3億7,636万8,697円、そしてそこに当然、入館料をいただいているわけですね。入館料が、当初、何年間かは500円もらっていたと思えます。それが途中から、入館者数が減ったから下げたのかどうか分かりませんが、現在は250円の入館料をいただいているんじゃないかというふうに思っております。私が申し上げたいのは、山あげ会館と龍門ふるさと民芸館の施設管理委託費、及び観光客の入込数なのですが、山あげ会館は平成17年度から平成30年度まで、まだ平成30年度の決算とか、行財政報告書は出ておりませんが、ただ、昨年まで工事していましたから、今までの実績からすると約5,000人前後なのかなというふうに、私は勝手に推定しております。それで計算すると、この平成17年度から平成30年度までの間に、入館者数は13万5,600人程度、それから龍門ふるさと民芸館のほうは、その3倍以上の47万5,120人来ているわけでありまして。それで、私は商売人なのでいろいろこういう計算をしちゃうんですけども、合併してから今までの委託料・指定管理費、それから山あげ会館の修繕費、それと入場料を推定すると、4億1,700万円ぐらいの収入があるわけでありまして。それを山あげ会館の入館者、13万5,600人ぐらいで割ると、1人当たりの経費が3,075円になるわけでありまして。この辺は、もちろん本市を代表するユネスコ無形文化遺産登録になっている山あげ行事に関連する施設でありますからあってもいいし、ほかの施設も当然、赤字運営しているところは多々あると思っております。しかし、この辺の経費の管理を、やはりもう少し改善する必要があるんじゃないの

かなと思うのですが、それについて伺いたいと思います。

それから最後の質問でありますけれども、予算書109ページ、山あげ祭実行委員会交付金568万5,649円、それから111ページには、山あげ保存会660万円というふうにありますけれども、これは毎年、これだけの補助金を出して盛大にやるわけですが、また先ほどの同僚議員の質問の中にも、公演の内容を漫画化して無償配布するんだということがあります。若い人にもわかってもらう、知らない山あげのストーリーを、わからない方にはわかりやすくということなんだと思うので、それはそれで結構だと思うのですが、やはり、山あげ祭は私は本当にすばらしい行事だと思うんですよね。秩父の夜祭なんかを見に行っても、本当に1席5,000円とか3,000円とかのお金を取って、そして12月の寒い中、20万人、30万人という客が来るわけです。ですからうちの山あげも、そういうお金が取れるような、そういう山あげに、ぜひしていかないと、せっかくユネスコ無形文化遺産登録になっても、どんどん経費だけが出ていって、人的にも財政的にも、だんだんじり貧にならなければいいなというふうに私は危惧しているのですが、その辺の見解についても伺いたいと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 川俣市長。

○市長（川俣純子） 一番最初にありました「市民秋まつり」については、私のほうから答えさせていただきます。確かに南那須地区のいかんべ祭、イルミネーション等がなくなってしまい、ちょっとやはり寂しいのかなという気持ちは私自身もありましたが、昨年やりました山あげ祭というよりも、烏山城築城600年のお祝いに当たり、本当はもうちょっと違ったことができなかなと、私の中で思いました。烏山城築城は、本当にうちの市にとってとても有意義なものであり、今までの文化であります。新しいものをつくってもいいのではないかなというのと、いかんべ祭が終わって、花火大会を一昨年に行ったときに、思いのほか皆さんが集まってきてくださって、花火というのは人にとってとても楽しめる、老若男女、誰でも喜べるものかなと思いました。できたら花火だけ継続できないかなと、そういう気持ちがありまして、昨年、市民秋まつりという形であわせてできないかなと思って開催したところ、商工会のほうにも御協力いただき、いろんな方々に協力していただきました。しかし花火というのはやはり暗くなってからなので、それまでの間、どのように人を引きつけておくか、どうしたらいいのかなという中で、今回は「図書館まつり」や、今まで開いていました「健康福祉まつり」そういうものとか文化祭とかをあわせてエリアをつくって、この南那須地区の南那須公民館から図書館、そして駐車場、そして保健福祉センター、この武道館も使って何かイベントができないかと考えましてお声をかけたところ、いろんなところの方が、こういう事業なら参加してもいい。ただ日程の調整がなかなか難しく、今、一生懸命諮っているところであります。ましてや

去年は「ひまわり」という映画に、一緒に烏山高校生が参加して封切りさせていただきました。その中で、最終のときに出てくるランタンを上げるというシーンがあります。とても感動的なシーンで、それをせっかく高校生たちに、まちおこしのためにつくっていただいて、ほかの方たちがスポンサーになってくださってつくった映画の中の最終で、皆さんが盛り上がるシーンを、やはりこの市が本当にやらなければ、せっかくつくってもらったものが生きないのではないかと思い、ランタンも去年はやらせていただきました。まだまだ去年は本当に、皆さんから言えば、どたばたしていたかなど。段取りも悪く、いろんなところからお叱りもいただきましたが、少しずつよくなって、皆さんの参加を得て、いつも小堀議員がおっしゃるように、わくわくする事業を展開できるものの1つかなと思っております。削減ばかりではなく、やはり楽しめて、それでお金をかけないで、みんなが参加できるものと考えてこれを選びました。

また山あげ祭に関しても、私自身、ずっとお金をもうける祭にしてくれと、私自身、栈敷席の500円や200円は、何を考えているんだと思いました。秩父は座っているだけで6,000円が最低です。なぜお弁当ぐらい出して、地域のお食事どころや、いろんなところがもうかるようなシステムに私自身もしたいのですが、450年の伝統を覆すことはなかなか難しく、今、実行委員会と諮って、少しずつ改善をしていきたいなと協力しています。ですが、この1～2年でできることではないので、少し長い目で、450年分の何百分の1なのか、来年、再来年からできるか、それは私の努力次第なのかもしれませんが、なかなか難しいので、山あげに関しましては、少し長い目で見ていただけるとありがたいなと思います。遅いっていうのは、わかっています。遅いのはわかっていますが、初めてとりかかっているの、その辺は見計らっていただけるとありがたいなと思います。

市民秋まつりのほうは、皆さんの協力のもとで進めて拡大していきたいなと思っております。御協力のほど、よろしく願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私から概要書の3ページ、商工業の振興、空き店舗対策新規出店開業事業について、お答えします。空き店舗対策補助金に関しましては、平成24年度から実施したところでございます。平成28年度まで、利用者はなかったのが現状でございます。平成30年度におきまして、対象経費を改修費用に変更しまして、限度額を50万円といたしました。そうしたところ、今年度は3件の申請がございました。3件の申請がありまして、現在、1件が改装中でございます。来年につきましては、2件分を予算化したところ、現在、もう既に1件の事前相談を受けている状況でございます。

続きまして、企業誘致の費用対効果について御説明します。企業誘致費につきましては、企業誘致奨励金が主な事業になっておりまして、企業誘致数は、平成31年度につきましては合

計38件、金額にしまして1億7,437万9,000円を予算化しております。実績としまして、今年度までの実績で企業立地奨励金が5億1,613万5,000円、うち太陽光については3億8,000万円ほど支出している状況でございます。これらの固定資産税が幾らかということになりますと概算ではございますが、全体の金額で4億4,743万2,000円、こちらが固定資産税の額となっております。実際は、固定資産税の額よりも多く奨励金を支払っている形になっております。それというのは奨励金には、土地取得費ですとか、雇用関係の費用とか、そういった上乘せがありまして、実際は固定資産税より多く支払っているんですけども、一応、新設から6年間で奨励金が終わりということになりますので、それ以降については、確実に固定資産税のほうが納税・収納されていることになってくると思います。

もう一点なのですが雇用対策ということで、地元雇用を推進しておりまして、平成30年度までに11名の方が立地企業に雇用されております。今後の予定としまして、認定した起業者の中で平成37年度までに合計で39名、あわせると50名の雇用が確保できる見込みとなっておりますので、こちらについても、一定の効果があったものと考えております。

次に予算書75ページの観光費の関係になります。長峰ビジターセンターにつきましては、先ほどの答弁のとおり、県の委託金以外は市で負担している状況でございます。

次に観光協会の活動内容と、山あげ会館の指定管理の状況について御回答します。那須烏山市観光協会については、観光事業の振興、並びに地域住民の観光意識の高揚を図り、地域文化の発展と交流人口の拡大による地域経済の発展に寄与することを目的に設立されておりまして、平成29年度に一般社団法人化されました。主な活動内容としましては、観光の宣伝、観光客の誘致、観光に関する出版物の刊行、観光土産品の販売、駅前そば店の運営、そして山あげ会館と龍門ふるさと民芸館の指定管理業者として、施設の維持管理を行っているところでございます。事業費の大半が、市からの補助金で賄われているのが現状でございます。

御質問のありました、山あげ会館指定管理委託の状況につきましては、おおむね良好に維持管理されているところであります。貴重な収入源である山あげ会館入館料につきましては、非常に少ない状況でありまして、今後、入館者の増加に向けた創意工夫が必要であると考えているところです。また、山あげ会館内における売り上げも少ない状況でありまして、売上向上に向けた努力が、やっぱり必要であると考えております。今年度から観光振興ビジョンというものの運用を開始しまして、それらを策定する際に、策定委員さんからも、観光協会の機能強化を求める意見が非常に多かったことを受けまして、次年度につきましては、観光協会の機能強化に向けた経営改善のコンサルティングを実施することを考えております。

次に山あげ行事について、お答えします。山あげ祭につきましては、実行委員長のもと、山あげ祭実行委員会において円滑な運営に向けて、各種、取り組みを行っているところです。事

業費につきましては、栈敷席の運営費用やパンフレット・ポスターの作成費、シャトルバスの運行や、トイレ・照明等のレンタル、そして交通整理のための警備委託等で、総事業費は約800万円程度を要しております。このうち、約600万円を市からの交付金として支出する計画としております。山あげ祭の観光客については、平成30年度につきましては、台風の影響によりまして、例年よりも大分少ない状況となっております。今年度の観光入込数は6万人としております。一応、6万人から経済波及効果を推定したところ、約3,600万円と推計できたところでありますので、観光客が増加すれば経済効果はそれなりにあると考えております。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 手短に、開発事業の成果についてお答えいたしますが、合併当初から平成27年度までは、御存じのように10数団体が取り組んできた事業がございました。それについては現在まで10団体が、まだ継続して栽培・生産等を行っております。平成28年度から3カ年、平成30年度まで行ったブランド化の事業についての特産品開発については、3団体が取り組みまして、2団体が今現在、申請予定でございます。やはり、これまで取り組んできました実績は、農家の所得向上でありますとか、それが市の特産品につながれば素晴らしいことでもありますけども、そういったことも含めて、これからも新しい平成31年度からの事業に根気強く取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 手短に申し上げます。デマンド交通の利用につきましては、おおむね南那須地区は約30名、烏山地区は2地区という言い方をしているのですが、トータルで50名ほどで、おおむね横ばいです。

それからコールセンターの委託費が高いか安いかにしましては、各自治体の地区割り、やり方が全く違うものですから、一概に安い高いかは申し上げられませんので、控えさせていただきます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 13番久保居議員。

○13番（久保居光一郎） ありがとうございます。冒頭に、市長から大体の説明をいただきましたので、山あげ会館の運営についても、それから市民秋まつりについても、おおむね了解はするところであります。また商工観光課長からも、それから農政課長からも、まちづくり課長からも説明がありましたのでおおむね了解するのですが、何と云っても、いかんべ祭も終わって、イルミネーションのところも武道館になって。やはり川俣市長はいろんな今までに、

予算概要書の中の5ページにも書いてあるように、補助金等の見直し・廃止で、負担金、補助及び交付金について、団体運営費や市単独制度等の26項目について削減または廃止をした。それから、事業効果が低いものや、県内水準から著しく高い項目については、平成31年度中に見直しをするというようなことで、私も大変評価をします。とにかく、山あげはそういうふうに素晴らしいものですから、何とかお金が取れるように。少しずつ長い目でと言っていると、ユネスコ無形文化遺産登録になったのに、時機を逸しちゃう、やっぱり時機っていうのがあるわけです。ですから本当に450年の伝統であっても、1～2年で改革するぐらいの気迫でやってもらわないと、私は逆に時機を逸してしまうんじゃないのかなというふうに思います。

それから、企業誘致事業費の1億7,000万円は、今は投資していて固定資産税やなんかでの見返りが、まだそれよりも少ないというのは、これはやむを得ないと思います。しかしこういうのも、私が先日、一般質問したフラワーパーク構想なんかの、そういうところの費用なんかにも、やはりこの企業立地なんていうのは、まだ検討中だからそれはいいですけども、そういうところにも使えるんじゃないのかなというふうに思います。

いずれにしても無駄を省いて、ただ、イベントをやるにしてもいろいろ戦略を練って、最終的に、じゃあ何万人の誘客で、どのぐらいの経済効果を図るんだというようなことを考えていただかないと、これからはやっぱりだめなんじゃないのかなと。山あげ祭についても、推定10万人とか12万人とかっていうふうに発表されますけれども、実際に駅前から足利銀行までの表通り、それから国道沿いと、あのあたりの面積なんかもずっとはかってみると、大体の人数というのはわかってくると思うんですよね。そういうのと、経済効果がどのぐらいあるのかということ、ただの推定で10万人だ20万人だ、経済効果が800万円だとか、そういう単なるあれだけではだめなので、もっとしっかりと。やはりお金を出してもいいけども、それをやはり入場料か何かで、秩父の夜祭のように、お金をやっぱり取るんだと、市民の皆さんに経済効果をもたらすんだというような決意で、ひとつやっていただければというふうに思います。

以上です。答弁は結構でございます。

○議長（沼田邦彦）　ここで暫時休憩いたします。

再開を午後3時25分とします。

休憩　午後　3時13分

再開　午後　3時25分

○議長（沼田邦彦）　休憩前に引き続き会議を再開します。

17番平塚議員。

○17番（平塚英教） それでは、当初予算の予算書によって何点か質問したいと思いますので、答弁をお願いします。まず41ページでございますが、地域の学校を核とした地方創生事業費53万4,000円でございますが、これにつきましては、概要のほうにも出ております。これは継続事業でございますが、本年度はどういう事業をやるのか御説明をお願いしたいと思います。

次、43ページでございますが、情報政策推進費ということで社会保障・税番号制度システム整備事業費というのが741万円載っておりますが、これはいわゆるマイナンバー制度の、こういうような呼び名にしたのかどうか。この事業内容について説明をお願いいたします。

3番目は、53ページに児童虐待防止対策費ということで22万1,000円載っておりますが、今回の市の概要を見ますと、重点事業の中にこれとは別に家庭相談員活動事業費553万2,000円載っております。ページを送りますと、57ページです。そこに載っておりますが、全国的に児童虐待が問題になっておりまして、特に最近は千葉県野田市の児童虐待問題が、学校でアンケート調査をとったやつを虐待している親にやってしまったと、コピーを。そういう問題が発生して命が奪われてしまったわけですが、そういうものについて非常に全国的に対策が求められているわけでありまして。

そういう意味でこの家庭相談員活動事業費の相談員を1人ふやすことでどのような運営とか、相談対応を図るのでしょうか。児童虐待対策費を強化するために児童相談所、学校、関係機関、これは保護者も含めてですけれども、連携をとってこういう対策に当たるというのが全国的に言われているわけなのですが、この家庭相談員の増員によって全体の対策をどう図るのか。お示しをいただきたいなと思います。

4番目は、これと関連するかどうかわかりませんが、57ページに子ども・子育て支援事業総務費というのが128万6,000円載っております。

概要版の13ページには第2期子ども・子育て支援事業計画策定費と100万円載っているのですが、これは予算書では見当たりませんので、恐らくこの中に入っているのかなと想像するのですが、それとあわせまして、63ページ、子育て世代包括支援センター事業総務費362万5,000円が載っているのですが、この事業内容についても説明をお願いいたします。

5番目は、防災行政情報通信整備費につきましては、同僚議員のほうで質問をしまして、83ページ、内容等については大体わかったのですが、1億2,300万4,000円と防災行政情報通信管理費714万1,000円、その上にも防災無線管理費が276万5,000円と載っているのですが、この一番上のやつは今の南那須でやっている防災無線の費用のかなとお見受けするのですが、平成31年度はやるということで載っているの

かなと。

この2つについては、国から、これは全部起債充当で事業を進めるということでございます。起債を行って進めるということでございますが、あとから、国のほうからこのうちどれだけ充当して返ってくるのか。その内容について説明をいただければと思います。

これにあわせて、市内の公共施設等に防犯カメラ等を設置されていると思うのですが、何台設置されていますか。要するに、防犯カメラの対応をどういうふうにしているのか、中身についても説明をいただければと。

あわせまして、通学路等の、特に徒歩で通学される児童生徒の方に対して、安全対策のためにいわば重点地区にこの防犯カメラをやったほうが有効かなと私は考えるのですが、市内の方がそういうものを要望していただければ、そういうものに補助対応する、補助というか交付金というか、そういうものを出せるような考えがあるというようなことを聞いておるのですが、これについて、もしそういう要望を、こちらがそういう徒歩の通学のまちなかの安全対策のために防犯カメラを設置するというようなことで支援がいただければ、そういうものを取り組んでもいいと考えられるかどうか。その辺の説明をいただきたいと思います。

次に85ページの教育情報ネットワーク整備事業費、3,411万5,000円でございます。この中には、小学校1年生のクラスにプロジェクター型の電子黒板を新たに整備し、それを利用するというところでございまして、また、その下には特別支援教育等推進事業費と、これは先ほど質問があつて、タブレットを新たに増加して効果的な学習指導に当たるとこのように、要するに電子機器の対応が急がれているわけなのですけれども、急遽文部科学省で、小中学校への携帯電話やスマートフォンを原則持ち込みを禁止してきたのですけれども、これを見直すような方針がでてきているわけなのですけれども、これについて教育委員会のほうではどんなふうに受け止めているのか、対応等について、特にスマホは高価でございますのでそういうものの学校での取り扱いというのは非常に難しいかなと。また場合によっては、いじめ等にも使われる可能性もあります。しかしながら今防災とか防犯とか、そういうためにこういうような電子機器もどんどん普及しているのも事実でございますので、対応についてお考えをお示しいただきたいと思います。

最後に、国民健康保険事業でございますが、平成30年度から、国民健康保険の財政運営の責任主体が県になりまして、市町村は国民健康保険事業納付金を収めるとなったのですけれども、ことしの納付金の額が県全体では9.84%も上がっているのです。本市においても9.58%伸びております。こういう中で、本市の国民健康保険の運営状況、国民健康保険税の値上げをするようなことをしなくてもいいかどうか。その辺の見通しについてお伺いをします。

あわせて、国民健康保険は国民の4人に1人が加入して国民皆保険制度の重要な柱となっておりますが、滞納世帯も10%を超えるほど、国民健康保険税の重い負担が市民にかぶっております。

この国民健康保険加入者は農林水産業とか自営業が多かったのですけれども、現在は年金生活者が43%、あるいは非正規雇用が34%、あわせて8割近い方がこのような方であります。協会けんぽや組合健保と比較しまして、国民健康保険は加入者に大きな負担となっております。全国知事会、市長会、同町村会においても国民健康保険の定率国庫負担の増額を政府に望んでおりまして、2014年度には公費を1兆円投入してくれと。そして、協会けんぽ並の負担率にすることを政府与党に求めています。

そのときの全国知事会の厚生部会の代表が栃木県の福田知事でございまして、私どもの赤旗新聞にも福田知事が登場しまして、国民健康保険税の公費、国の負担をどんどんふやしてくれというようなことで登場しているわけなのですけれども、そういうことで、特に国民健康保険税は所得割、資産割、均等割、平等割と4つのあれになっていますよね、その中で均等割と平等割、これはまさに昔の人頭税に当たるものなんです。

これは要するに家族の多い人ほど負担が重い税金になっているわけなので、それを均等割と平等割を合わせますと全国で約1兆円ということで、これを国が負担してくれれば国民健康保険の運営は協会けんぽ並に下げることができるんです。そういうことで全国の市町村でも国にそういうような意見書を提出しているのが実情でございまして、ぜひ川俣市長のほうにも、福田知事と同じように県の市長会を通じて国のほうに国庫負担の増額を求めるような運動をお願いしたいということでございます。よろしくお願ひします。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、41ページ地域の学校を核とした地方創生事業費の内容でございます。これは、平成29年度から烏山学ということで地域の人材育成を目的に烏山高校と那須烏山市が連携して取り組む事業でございます。

平成31年度の事業につきましては、現在烏山高校で案を練っておりますので現在まだ回答できる状況ではございません。例年どおりのメニューになるのかなと思っております。

それに合わせまして、そのときに座学、フィールドワークといった地域に子供たちが、学生たちが出向いてまいりますので、それにかかわる謝金等の支払いを那須烏山市が行っている状況であります。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） それでは、まず予算書の53ページの児童虐待防止対策費の内

容についてお答えいたします。これにつきましては、児童虐待防止用のリーフレット作成代ということで幼稚園、保育園それから小学校、中学校ほか関係機関に配布するものをつくるということでの予算が主なものでございます。

続きまして、57ページの家庭相談員活動事業費にかかる部分でございますが、これについてはまずどんな運営をとということではありますが、通常そういった案件がありましたら、小学校または保育園、幼稚園等でそういったもの、あざとかそういったものを、もし、傷だとかそういった場合についてはまず臨場と言いまして、そのような形で直接お子さんの状況を確認したりということ踏まえて、その中で内容によっては児童相談所送致とかそういった対応になってくるわけなのですが、今回、予算を大幅にふやした理由としましては、平成29年度から比較しましても、相談案件等を含めまして件数が倍増しておりまして、例えば児童相談所送致になった者があっても将来的にある程度落ち着いてくると市のほうに県から移管となりまして、移管となったあとも御家庭の訪問等そういった対応もしなければならぬという実情がありまして、現状で言うると新規の案件の対応でかなり手一杯の状況でございます。そういったことから2名に増員をさせていただくこととなります。

それでは、連携はどうとっているかという部分につきましては、年に4回、実務者会議といいまして、要保護児童対策協議会というものを開催しまして、この中で関係する保育園、幼稚園、小中学校を含めまして、警察、児童相談所、民生委員さんとか関係する機関の方の会議を持ちまして、今後の対応等についてどうあるべきかということについて定期的に相談をしておる状況でございます。連携という部分については、そのような形となります。

3点目の57ページの子ども・子育て支援事業計画の関係の費用についてなのですが、こちらについては平成30年度の事業でニーズ調査と言いまして、国から夏ごろ示された考え方に基きまして、年末から年明けにかけてアンケート調査を、ニーズ調査というものを一定の項目について実施しました。これについて現在集計中で、今後県の方に報告したものをもとに新年度においては平成32年度から5カ年の第2期の子ども・子育て支援事業計画の策定に向けての費用で委託料100万円ということで計上をさせていただいております。

最後に、子育て世代包括支援センター事業総務費についてお答えいたします。こちらについては、平成29年度からこのセンターをこども課内に設けまして妊娠から出産、育児にかかる心配事、悩み事についての相談の総合的な支援、相談窓口ということで設けたものでありまして、事業の主な内容としましては、そのようなことなのですが、ここに看護師1名ということで配置をしまして、その人件費等が主なものでございます。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうでは、防災行政情報整備費の起債の関係でございますが、

こちらにつきましては、予算書35ページに消防施設事業債ということで、入っております、1億4,700万円ほど起債ということで入っております。

これにつきましては、先ほどの事業の1億2,300万円と消防自動車の購入費、2,400万円この2つを入れたものでございます。この起債につきましては、事業費の100%充当で、償還金の70%が交付税で算入されるということになりますので、実質事業費の30%ぐらいでこの事業ができるというような、特に有利な起債事業でございます。

次の防犯カメラにつきましてでございますが、今、市のほうで設置してありますのは施設の管理用に設置しております、34台ほど設置しております。そのほか市内では街路等に商店街のほうで付けているところがございます、それが8台ほど設置しているというような情報は得ております。そのほか、道路管理者等ほかの団体で付けているものについては残念ながら情報がこちらには来ていないということでございます。

先ほど提案がありました通学路への防犯カメラの設置につきましては、学校教育課と道理管理者といろいろ設置場所とか具体的なものはちょっと詰めて検討させていただくことになると思いますので、あとで、連絡をいただければ検討させていただきたいと考えております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 予算書の85ページの教育情報ネットワーク整備事業費についてお答えをしたいと思います。平成31年度予算3,411万5,000円ということでございますが、平成30年度予算が5,635万3,000円ということで、2,223万8,000円の減額になっております。これについては、電子黒板、パソコン、学校用のサーバー等のリースが満了したということで2,200万円ほど減額になっております。

しかしながら、平成31年度については、小学校1年生のクラスについて電子黒板の設置を予定しております。

それともう一つ、学校のスマホの解禁問題対策でございますが、これは一番のメリットというのは実際に通学時が大きなメリットになるのかなという気がします。ただ、本市においては通学時間も短いというのもありますし、スクールバス利用というようなことでありますので、本市については余りメリットが見当たらないということでスマホの解禁はしないということで、今のところそういう方針でございます。

○議長（沼田邦彦） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤加代子） では、順番が前後してしまいましたが、2番目に質問がありました43ページの社会保障・税番号制度システム整備事業費ですが、こちらの増額につきましては、国が平成31年度と平成32年度の2年間をかけて新しい次期システムを構築する予定

になっておりますので、それを見込んでの交付金の増額となっております。

最後に御質問のありました国民健康保険についてですが、政策的なところはこのあと市長にお答えしていただくことにしまして、国民健康保険税を上げなくても大丈夫なのかという御質問なのですけれども、確かに平成30年度に比べて平成31年度の納付金が10%近く上がってしまったということもありまして、それは市としても想定外、想定以上の上がり方だったのですが、平成30年度の新制度導入に当たりまして、そういったことを見越して基金の方の積立を一時160万円しかなくなっていた基金を今3億1,000万円まで積み直しできていますので、そちらからの基金の組入で対応できるということで、予定どおり3年間は国民健康保険税を上げなくても済むような運営をしていくつもりでございます。

○議長（沼田邦彦） 川俣市長。

○市長（川俣純子） 国へは要望をしていきたいと思っております。

○議長（沼田邦彦） 17番平塚議員。

○17番（平塚英教） ありがとうございます。大体理解できたのですが、なんとといっても児童虐待の問題、これはこんなに騒がれているのに後を絶たないというようなことで、虐待をしている親とか保護者は虐待をしているという自覚がないんです。しつけをしているというような自覚なんですよ。

だから、それは、周りの人がこれ虐待でしょというのを理解してあげなくては、その人は自覚しないですよ。そのためにも、児童相談所とか学校とか、関係機関が一体となってそこそ高いアンテナで、そういう問題があるかないか。そしてもしそれに類するようなことがあったらば、これはすごいデリケートな問題なので、連絡を取って、そういうものを未然に防ぐような、児童相談所の職員は大体人口1万人に1人しかいないというんです。これは、だからといってあのような事件を、今、私は許すわけにはいかないですけども、それほど少ないんです。ここでいえば西那須野に児童相談所があるんですけども、それが那須郡、南那須も含めて包括しているというのが実情なので、なるべく児童相談所の世話にならないように、地域で学校とか教育委員会とか保護者とか、もちろん警察も含めてですけども、連携をとって対策を進めていただきたいと思うのですが、教育長もう一度この点についてお考えをお聞きます。

○議長（沼田邦彦） 田代教育長。

○教育長（田代和義） 議員がおっしゃるように、学校それからこども課、児童相談所と連携をとりながら、新聞に出たのがいい悪いは別にしましても、本市でも昨年2件ほど新聞に出たということになっていますが、放課後児童クラブ以外に、これも全部学校で子供、ちょっと目が腫れているけれどもとか、ちょっと首のところにあざがあるがということで発見されているわけですので、そういった部分について学校のほうも子供たちの普段の動向等を注視しなが

ら、先ほど申し上げた機関と連携を取りながら進めてまいりたいと。また、ひとたび事が起これば毅然とした態度で望みたいと思っております。

○議長（沼田邦彦） 16番高田議員。

○16番（高田悦男） 昨日は一般質問ラストバッターでありました。きょうは総括質疑大トリは中山議員に譲ることにしました。よろしく申し上げます。

5点について質疑を行いたいと思います。概要の11ページ、国体開催運営事業費、事業概要についてお尋ねをいたします。

続きまして概要の12ページ、辺地道路整備事業費、この事業は有利な辺地対策事業債を用いて継続事業としてやられているわけですが、本年の予算3,010万円、整備区間と概要についてお示しいただければと思います。

続いて22ページ、新型インフルエンザ予防事業費。昨年に比べて半減しているわけですが、この理由をお聞かせ願いたいと思います。新型ですから、来年になると旧型になるのかなという予想はするのですが、この辺の説明をお願いいたします。

最後に、予算書109ページ河川費になります。河川愛護会補助金約14%の減額なんです。この理由をお願いします。この補助金につきましては、私は増額すべきだと今まで何回も一般質問でやってきたと思います。これがボランティアでやってもらう以外の方法を取りましたら5倍から10倍の委託費がかかるのではないかなと、そのような観点からこの質疑を行います。よろしく申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 今御質問いただきました予算概要書11ページです。上の段のほうにございます生涯学習の充実の欄、国体開催運営事業費の内容についてということでお答えいたします。

まず、運営事業費のうち、同じ概要書13ページのほうに、下段です、再掲主な事業内容のうち新規経費についての補足ということで真ん中ほどに、国民体育大会準備委員会交付金210万円という項目があるかと思えます。それを含んでおりまして総額で476万3,000円の計上なのですが、残りにつきましては職員数も必要になってくるということで臨時職員1名を雇う予定で賃金も入っております。

それから、来年度につきましては国体の開催が隣の茨城県ということですので、視察の高速使用代とか職員の旅費等を含んでおりまして、総額で476万3,000円ということになってございます。ちなみに交付金のほうの使いみちにつきましては事務局の消耗品代が主でございますが、プラス国体醸成に向けたPRということでのぼり旗の作成ですとか、横断幕の作成、そのほかに大桶運動公園を会場に実際に競技をする実施の設計、だいたいそういった競技専

門でリースをしている会社は何社かあるということですので、そういったもので実際にどういったものを配置するかによって河川事務所のほうと協議を詰めていかなければなりませんので、その設計費を計上してございます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） それでは、私から概要書の12ページ、真ん中の辺です。辺地道路整備費、田野倉曲畑線について御説明申し上げます。

こちら、平成31年度の予算で3,010万円ということで、こちらは議員知っていると思うのですが、田野倉曲畑線の曲畑工区ということで、実際は曲畑工区という名前は使っているのですが、今年度の予定区間はいわゆる八ヶ代、わかりやすく言えば西山鉄網の工場の前の現道拡幅でございます。

こちら現道拡幅とはいえ、地形的に大変急峻なところで谷側のほうの本工事を今進めているのですが、幸いほぼ用地が全体工区で1キロメートルあるのですが、ほぼ用地を取得しております、少しは残っているのですが、今年度につきましては本工事の促進ということで3,000万円ほど計上させていただきました。こちらは、ほぼ本工事ということで、ただ暫定で施工しますので供用開始には至らない本工事ということで御理解願いたいと思います。

続きまして予算書の109ページの河川愛護会補助金です。こちらはなぜ減額かということですが、ここでこの補助金を決める算定のやり方を説明させていただきます。

こちら、例えば、平成31年度の予算を計上するのに、算出の方法としまして、ことしでしたら平成30年10月1日現在の住民基本台帳の世帯数、そちらに基準の金額を掛けて算出しております。こちらの基準の算出の金額なのですが、現実的には県内の市町村でばらつきがありまして、通常大体目安として150円から200円ということで、今年度に関しましては県内の基準に照らし合わせまして、平成30年の10月1日の世帯数に170円を掛けまして約180万円ということで算出させていただきました。

こちらは、このお金は河川愛護会、市長が会長で議長が副会長ですが、そちらのほうに交付して、そしてから実際河川愛護の各分会、自治会が中心なのですが、自治会の分会に交付金として交付します。ここで現実的な問題を言うのですが、河川愛護会につきましては、分会の数が那須烏山市全体で89こちらの自治会があるのですが、現実的に地域の高齢化等、なかなかこれはもともと本当にボランティアでお願いしている作業なのですが、89の分会があるのですが、そのうちあえて箇所は言わないのですが約20分会あたりが作業ができないという状況になっていますので、実際の交付金として交付される額は、総額は減ったとしても変わらないのではないかなと思っています。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私からは概要の22ページ予防事業費、新型インフルエンザ予防事業費の減額についてでございます。こちらは、平成21年度新型インフルエンザが発症してから大流行時の10日間をしのぐためにということで計画的に防護服、消毒液とかマスク、それから食料品等を備蓄しているわけですけれども、今回防護服等がだいぶ揃ってきたということで、そこの部分を減額した部分になっております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 16番高田議員。

○16番（高田悦男） おおむね了解するところでありますが、順を追って再質問したいと思います。

大桶運動公園につきましては、昨日も一般質問でお尋ねしたように来年度の開催には支障がないわけでしょうか。その点をお答え願いたいと思います。

辺地道路整備事業につきましては、一番有利な辺地対策事業債でありますから、これは、交付税100%措置でしたか。90%ですか、かなりいいですよ。それだけ再確認したいと思います。

新型インフルエンザ予防事業費については、防護服が充実したということで了解いたします。

最後の河川費なのですが、先ほども言いましたように約16%の減なんです。厳しいことを言いますと削るところがなくてここを削ったのかな、そういう見方もあるんです。20分会が作業をできないという話だったのですが、ではその20分会分は委託しているわけなんでしょうか。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） ただいまの再質問にお答えいたします。大桶運動公園の平成31年度中の使用には支障はございません。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） まず、辺地対策事業債については充当率100%ということで。

河川愛護会のこちらの愛護会の趣旨というのはあくまでもボランティアということで、こちらが強制するものではございませんので、各分会で諸般の事情があるところはあえて、私ども

はそれについては意見を申す立場ではないものですから、しょうがない、現実だと思います。

ですから当然いわゆる、昔からの草刈り機のガソリン代みたいなものだと思うのですが、そういうことで各愛護会の分会でできないのはもう仕方がないと思っております。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 16番高田議員。

○16番（高田悦男） 都市建設課長の答弁は理解できるのですが、実際にボランティア作業している各分会でもやはり世帯構成員の高齢化に伴いまして勘弁してくれ、出られないという方がふえてきております。あるところによりますと、罰則金があるんです。出られない場合は3,000円払え。ですから、私はその方法はおかしいと言っているんです。ぜひそういう罰則のルールは、なしでも、見て見ないふりをできないと思うんです。私もそれはおかしいと言っていますけれども、市でもそんな形で説明をしていただければと思います。それは各分会に担当の小田倉課長から申し上げることはできますよね。やんわりとお願いします。

以上で終わります。

○議長（沼田邦彦） 15番中山議員。

○15番（中山五男） では、私、最後ですからもう少々御辛抱いただきたいと思えます。

それでは質問事項につきましては既に執行部の皆さんにお渡ししてありますので、ちょっと端折りながら申し上げたいと思えます。

まず予算概要から、1ページに潜在保育士等就労準備金事業費70万円があります。これは、実際この予算をとっても市内に該当する者がいるのでしょうか、見込みがあつてこういった予算を計上したのでしょうか。このことについて確認をしたいと思えます。

それと、地域力強化推進事業費として292万5,000円を計上しておりますが、この事業というのは直営なのでしょうか。それとも、委託事業として実施するのか。お伺いします。

次、2ページに文化財調査費1,300万円ほど計上してあります。これは烏山城と長者ヶ平の調査をするということなのですが、私は長者ヶ平についてはずっと長年この調査研究費用を投入していても、さっぱり効果が上がっていないのじゃないか。実際、一度は県の費用ですか、発掘しましたが全部また埋め戻してしまいましたから、今、何もここに行ってもないです。ああいう形で果たしてこれからも調査費を投入し、事業を実施しても効果が上がらないのではないか。そう思っています。そういうことを見極めながら、これからの烏山城の調査についてもやるべきではないかと思っております。

それに3ページ、総務課長さん、この防災行政情報通信整備費の1億2,300万円なのですが、既に同僚議員から質問があつたのですが、私は確認をもう一度したいのですが、この事業実施は平成31年度、平成32年度の2カ年で終わるのでしょうか。それで、総事業費は幾

らかかるのでしょうか。この事業の範囲は市内全域と言いましたね。そうしますと、この受信機は全戸配布されるのでしょうか。それと、今度は実施完了してから維持管理費はどのぐらいかかるのか、これについても伺いをいたします。

次、5ページのサタデースクール、これは廃止しましたね。これは目的を達成したために廃止したのでしょうか。これまでには多分3,000万円を超える費用を投入しているはずですが。参加率は半分に満たなかったぐらいではないかと思いますが、これでも具体的に効果が上がったとみなされるところがあるなら伺いをしたいと思います。

次、11ページの中学生の海外派遣事業、300万円もとっています。これで、私は参加した学生には貴重な体験であったと思いますが、これが学生全体に波及する効果があったのかどうかです。これは、学校祭等で体験談を発表してくれればいいのですが、私はこの南那須中学校のみを聞いているという、どうもさっぱり全学生へ伝わるような発表はしていません。

これは、中学校の広島平和記念式典に参加した生徒も全くそうです。旅行先の日程等の報告は詳しく説明をしているのですが、そこで何を感じたのか、どうすべきなのかという、中学生としてそういうところが私らは聞きたいのですが、そこらのところはないです。これは間違いありません。

次に、26ページのジオパーク事業なのですが、ガイドの養成と言いますが、果たしてこれからこのジオパークがどんどん進展してガイドというのは何人ぐらい養成するつもりなのか、果たして活躍の場があるのかちょっと私は疑問を持って質問に加えたわけです。

次にデマンド交通です。4,000万円。これは私の出した資料が間違っていました。費用は平成29年度で3,200万円で、およそ2万人が利用しましたから、そうすると利用者1人当たり公費負担が1,600円もかかっているわけです。本人は300円かもしれませんが。私は1,600円も公費負担されているんだということを認識されていないのじゃないかと思います。この辺のところをどう利用者に伝えるか、それと運営の方法です。運行业者とコールセンターの両方へ払っていますので、それぞれの市町村によって運行方法が違うというのは先ほどの課長の答弁ですが、私は最も費用対効果の上がるような方法にするべきではないか、いずれにしても1人当たり1,600円はかけすぎるのではないかというような考えをしております。

次に、19ページのJR烏山線沿線まちづくり推進事業。これは私、平成29年の今から2年前、3月に一般質問してどのような効果が上がるのかということで当時の市長に質問をしておりますが、いよいよ事業が終わりました。3年間あわせて那須烏山市だけでも1,060万円、これは高根沢町でも出していますから、合わせまして2,000万円を超える事業費を投入したのですが、果たして費用対効果が上がったのでしょうか。具体的に効果の上

があったところをお伺いをしたいと思います。

次、21ページに家庭相談員の活動事業として550万円を上げております。これは平成30年度の280万円から大幅に増額しましたが、果たして適任者が確保できるのでしょうか。この見込みがあるのかどうかをお伺いをしたいと思います。

それに、25ページの中学生の広島平和記念式典の150万円、これは私、ことしは何を見られるか知りませんがぜひ派遣事業は削減すべきと思っています。これは私以外、同僚議員も、私は、行くことはいいんです。ですから、さっきの海外派遣と同じように全学生への波及効果があれば私はいいと思いますが、いずれにしても事業費削減はすべきではないかと思っています。

次に、今度は予算書からの一般会計の105ページ、コミュニティバスの馬頭烏山線の運行経費、昨年は350万円からことしは150万円と半額以下になったのですが、この減額理由について。

それに、111ページに国体準備委員会の交付金が210万円あります。これが平成31年度と、平成32年度、平成33年度と続くわけなのですが、この交付金の使途についてお願いします。大体委員さんの日当、費用弁償なのでしょうか。

次に国民健康保険特別会計ですが、123ページに国民健康保険税6億5,540万円ほど計上しております。平成29年度の決算を見ますと滞納が1億6,000万円です。そのうち現年度分だけでも5,000万円を超えているわけです。この平成31年度は本当に真剣に徴収できるのでしょうか。この辺のところ、担当課長の心意気のところをお伺いをしたいと思います。

それに、国民健康保険特別会計の124ページ、一般会計繰入金というのが2億4,415万9,000円あります。しかし実は一般会計の財源として国・県の負担金が1億2,550万円、一般会計に入っているわけです。それを合わせて2億4,400万円を繰り入れているわけなのですが、この国・県負担金は国民健康保険特別会計に直接受け入れるということは制度上できないのでしょうか。もしできれば、そのほうがいいのではないかと思っています。

141ページに国民健康保険特別会計で職員が今までの4人から5人に増額になりました。これはなぜ増額になったのでしょうか。

次、熊田診療所です。今回も一般会計繰入250万円ほどなのですが、これはゼロにするような努力ができないのか、これもぜひそうすべきだと思います。それと、医師と患者間、何年か前に何かトラブルがありまして、私のほうにも苦情のような電話があったのですが、今はこれ何もないのかどうかお伺いをしたいと思います。

それと、通勤手当を2万4,000円払っているんです。これは医師だとすれば、医師はすぐ裏に住宅を構えていますから、必要ないのではないかと思っています。ちょっと疑問を持ったも

のですから、わずかな額ですがお伺いをしたいと思います。

それに、後期高齢者の保険料、昨年から比較しますと1,278万円ほど増額なのですが、これは被保険者が増になるために保険料がふえることになるのか、それと、介護保険は職員が今までの、6人から5人に1名減になります。そうしますと介護保険のほうは何か事業、事務事業が減るところがあって減にするのか。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） それでは私から2点について順次お答え申し上げます。

まず概要書1ページの潜在保育士の70万円の関係で見込みはあるかということについてなのですが、こちらについてはお知らせ版に載せたりして、そういった応募があるかどうかという部分もございますので、今の段階でどうかというのは見えない部分もございます。

ただ、今現在では待機児童等は発生はしておりませんが、公立もしくは私立の保育園等で産休や育休、または配慮が必要なお子さん等、そのほかいろいろな事情で増員が必要だとかそういった部分が発生することも将来予想はされますので、そういったときに従来の就業奨励金の制度とは変えて、即戦力ということでこれを利用して就業していただけるかという思いで創設したもので、今後についてはちょっと動向を見守りたいと思っています。

2点目の概要書21ページの家庭相談員の人員確保の件についてお答えいたします。

これにつきましては、既に広報お知らせ版等で各方面等を含めまして声掛けをしたり行っておりますが、業務の内容というのがやはり虐待を初め学校での人間関係や家庭関係等の諸事情の問題を抱えるお子さんや保護者の相談の対応ということから、かなり内容的にはプライバシーの部分に踏み込むという重いものもございますので、介入とか対応によっては相談員の方にかかる精神的負担もかなり重くなるのかなと思っています。そういったこともあったり、一方で県の研修等を受けていただくことによって専門的な知識を身に付けていただいたり、そういった人生経験の豊富な方が必要かなという部分もございますので、今そのようなことを基本に考えまして、適任の方がいればということで今後も継続的に募集というか、採用に向けて努力をしていきたいと思っています。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） それでは私からは同じく予算概要の1ページ、地域力強化推進事業ですけれども、こちらは当然市も一緒に進むわけですけれども、社会福祉協議会への委託事業となっております。

○議長（沼田邦彦） 田代教育長。

○教育長（田代和義） 私からはサタデースクールと、中学生海外派遣事業及び中学生広島

平和記念式典への派遣事業についてお答えいたします。

サタデースクールの廃止理由ということですが、廃止だということではなくて先ほど小堀議員にお答えしたように、今後スポーツ関係を含めた形で、名前はサタデースクールではなくてサタデースポーツ・アンド・セミナーになるかどうかわかりませんが、そのような形に変更して文武両道に資するような形で進めたいと考えておりますので、御理解御支援のほどよろしく願いいたします。

中学校の海外派遣事業につきましては、学生全体への波及効果はということでございますが、学校祭等ではやっておりませんが、各校内におきまして報告会を実施しておりますので、議員がおっしゃるような学校祭でということであればまた校長と協議しながら、もっと保護者がいるようなところでも報告会ができるような形にできないのかということで協議をしてみたいと、実現できるようにしてみたいと思っております。

それから中学生広島平和記念式典への派遣につきましては、今年度12名南那須中学校、烏山中学校の生徒を派遣しております。報告会等、私としては非常に素晴らしい報告で、また教育委員の方からもそのような評価を受けておりますが、議員の御指摘はまた真摯に受け止めながら子供たちに事前研修その他できちんと指導をしてみたいと考えておりますので、ぜひ議員につきましても、高校に行くと修学旅行で確かに広島または長崎に行く学校も多くなっているのですが、やはり式典に行くというあの雰囲気は全く別物でございますので、ぜひそういった部分での経験を積ませたいと考えておりますので、御理解のほどよろしく願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 私からは長者ヶ平の活用と言いますか、効果と言いますかその辺のところとジオパークの件でよろしかったと思います。

まず長者ヶ平のほう、文化財調査費ということで烏山城の調査と合わせて計上してございます。このうち長者ヶ平にかかる部分は、長者ヶ平の調査整備指導委員会という各界の先生方を8名ほどお願いしております。その方たちに少なくとも年1回おいでいただいて、現況と今後の見通しというか、その辺のところを御相談しているところでございまして、その経費が来ていただく費用弁償と報償費です。それで大体20万円ちょっとの計算でございます。

こちらにつきましては、平成21年度に国史跡になりまして、本来であれば当初あそこの一帯に立派なモニュメントみたいなものを建てるという青写真から進んだところだと思いますが、その後、計画のほうが一時的にできるところからやるということで、現在は公有地化を大体20～30%、多目的広場のところを含めてしたところございまして、先週の金曜日にもそこでイベントを実施しまして、周知啓発してきたところでございます。

こちらにつきましては、国史跡となった以上は、それを見捨てるわけにはいきませんので、私どもとしては今後も継続的に長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡もあわせて計画的に整備活用を進めていかなければならないという覚悟で進めているところでございます。ただし、今現在は烏山城の調査に傾注というか、大きな力を注いでおりますので、若干割合は少なくなっているのは否めないところでございます。

それからジオパークにつきましては、ガイドの養成につきまして、ことし4月から12月までに18回ありました。延べで42名のガイドの方を派遣しております。ちなみに平成29年度は13回で延べ19人ということでございまして、需要といたしますか必要性はふえていていると考えております。

こちらのガイドにつきましては、まだ認定制度とまでには至っておりませんが、ガイドの養成講座等に参加していただいた方に協力という形でやっていただいております。皆さん熱心にやっていただいております。特に烏山城なんかも特化したジオガイド養成をしてきているところでございまして、今後も継続して取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうでは、まず防災行政情報通信整備でございますが、有利な起債が借りられるのが平成31年度、平成32年度2カ年度となっておりますので、その年度内に全部整備したいと考えております。

平成31年度に出しましたものでは整備は終わりますが、戸別受信機のほうで足りなくなってしまった場合、あとで買うと起債を受けられませんので、買えるだけ買っていきたくということで、平成32年度は約800台ぐらいまでは買えるかなということで考えております。これについては、まだ平成31年度の配付状況等を勘案しまして検討していきたいと考えているところでございます。

個別受信機については、前に民生委員さんに高齢者の訪問のときに携帯電話等を持っていない世帯を調査していただきました。市内で1,000世帯ちょっといるのですが、そちらのほうには戸別受信機は配付したいと考えています。そのほかにまた調査対象外になっているところでも、携帯電話等受信するものがないという世帯については配付したいと考えております。

次に、私のほうで人件費関係もやっておりますので、予算書の141ページの国民健康保険特別会計の職員の増の理由でございますが、従来国民健康保険担当の職員3名と、国民健康保険税担当職員1名の4名の人員をここの科目で見ているところでございますが、保険事業の強化を図るため、保健師の分をこちらのほうで見ることで1名増加となっております。

また、221ページの介護保険特別会計のほう、こちらの減でございますが、これは地域包括支援センターが民間に委託となっております。平成30年度が烏山地区、平成31年度が南

那須地区ということで保健事業等が減りますので保健師分1名、こちらを減ということになっております。

174ページ、熊田診療所の通勤手当でございますが、先生の自宅が診療所内ではなくて市内に引っ越したものですから、診療所までの通勤手当ということでなっております。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、予算概要12ページ、デマンド交通の件でございます。まず中山議員からお話がありました1人当たり1,630円の負担でございますが、今回デマンド登録者アンケートに際して、その費用に関しては中に入れてアンケートを実施した経過がございますので、その結果を待って今後対応を考えていきたいと思っております。

なお、平成31年度以降にも地域公共交通網形成計画を策定するに当たってアンケート調査を市民全体に向けて通知しますので、その中で全体的なデマンド交通にかかる費用の値下げも含めて検討してまいりたいと考えております。

予算書の105ページ、コミュニティバス馬頭烏山線運行費負担金の150万円の減でございますが、こちらにつきましては、平成30年度当初予算に当たりましてコミュニティバスのバスの更新を当時想定しておりました。その分を負担増を見込んでおりましたが、実際の経費としては減価償却費というような形で分散した形で経費削減をいたしましたので、その分減ったこと。また、コミュニティバスにつきましては、馬頭高校生、烏山高校生が乗り合わせておりますので、その分の利用増が見込まれてこのような状況になった結果でございます。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 概要書19ページJR烏山線沿線まちづくり推進事業につきまして、費用対効果ということでございます。

手短かに申しますと、平成28年度からの事業でございますが、主に高校生なんかによるJRツアーのおもてなし活動とか、サイクルマップの作成、または沿線地区の小冊子の作成、高根沢町の宝積寺駅前との同時マルシェの開催、サイクリングイベント等の実施、フォトコンテスト、インスタグラムのコンテスト等の事業を展開してございまして、JR烏山線というところの意識づけというのはさらに進んでいたのではないかなと思っております。

一応事業は今回終了しますが、高根沢町とは同時マルシェなりイベント等については同時開催で協力しようということになっております。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私からは予算書111ページ、中段より下、保健体育費、第77回国民体育大会那須烏山市準備（実行）委員会交付金について御説明いたします。

その内容、使途ということでございますが、先ほど高田議員のほうにお答えしたのと重複するかと思いますが、まず準備委員会で平成31年の7月に栃木県が正式に国民体育大会の会場として決定されたと仮定をして、7月に準備委員会を実行委員会に移す準備と一緒に、同時に進めるということで、事務局費それから大半が先ほど申し上げました設計と言ったのですが、申し訳ございません、実施計画書作成業務、これはアーチェリー競技、1会場、リハーサル大会も含めたその計画書作成のほうに100万円ほど委託する予定でございます。残りについては国体の機運醸成ということで懸垂幕、あとはのぼり旗等を作成をいたしまして、広く会場になりますよということを周知していきたいという目的でございまして、準備委員さん、そのあと、実行委員さんになるわけなのですが、委員の方々については大変申し訳ないのですが無給でお願いをしているところでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 水上税務課長。

○税務課長（水上和明） 国民健康保険税です。滞納繰越分を徴収できるのかとの質問でございますが、強い気持ちを持って1円でも多く徴収できるよう努力してまいりますので御理解賜りますよう、よろしくお願いたします。

○議長（沼田邦彦） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤加代子） 続きまして同じく国民健康保険特別会計の予算書124ページです。国・県負担金の1億2,552万4,000円を直接国民健康保険特別会計に受け入れられないのかという御質問ですが、これは制度的なものでして、恐らくこの国・県支出金というのは基盤安定負担金を指しての金額かと思うのですが、基盤安定負担金につきましては、国、県が市に対して交付するものでありまして、市の一般会計で受けて市の持ち分と合わせて国民健康保険特別会計のほうに繰り入れるという制度になっておりますので、直接の受け入れはできないということで御理解いただきたいと思っております。

それから熊田診療所の一般会計繰入金をゼロにできないかということなのですが、私も市民課長になって以来、再三議会では経営努力をというお話をされてきておりますので、十分承知しているところですが、確かに平成28年度までは毎年1,100万円から多いときで1,500万円ぐらいの繰り入れをしておりました。ですが、この3年間で250万円まで落としてきたという努力はしておりますので、この努力を認めていただいて、もうちょっと長い目で見ただければと思います。

それから、医師と患者間のトラブルとか苦情がないかということですが、どのような医療機関におきましても多少の苦情とかトラブルは生じるものだとは承知しておりますが、熊田診療所におきましては、たまたま休日当番医とかで慣れない患者さんが行ったときに、望んでいたよ

うな対応をしていただけないというような苦情を時々受けることはありますが、通常今かかっている患者さんからの苦情というのは現在はありません。

それから最後に後期高齢者医療の保険料の増加分ですが、これは被保険者の増と合わせて、平成29年度から保険料の軽減措置が段階的に解除されておりまして、その分の軽減者が減ったということで平成31年度も保険料がふえる見込みとなっております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 15番中山議員。

○15番（中山五男） 一通り全部、答弁をいただきました。全部が納得したわけではありませんが、時間がもうありませんので、これでおしまいにしたいと思いますが、最後に私は市長に一点申し上げたいと思うのですが、平成31年度の予算概要、これにもさまざまな事務事業が列記されていまして、特別会計の予算を合わせれば総額で188億円を超えております。

議会がこの予算を修正することなく議決するとなれば、議会も当然ながらこの予算案に責任を負うことになるわけでありまして、その予算を執行する市長には費用対効果が上がるよう、決して無駄遣いにならぬよう切にお願いを申し上げまして私の質問を終わります。

○議長（沼田邦彦） ここで、先ほど相馬議員の質疑に対しまして答弁漏れがございましたので、環境課長から追加答弁があります。

小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 相馬議員の質問に対して答弁漏れがありましたので、今お答えしたいと思います。これらの基金につきましては平成26年度から積立を行っておりまして、塵芥関係で2億3,047万6,000円、し尿のほうは9,473万6,000円でございます。各年度におきまして9,000万円ずつ積立を行っております。こちらのほうの金額につきましては、那珂川町と那須烏山市で按分しておりますので、毎年金額が変わっております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沼田邦彦） 質疑がないようですので、議長において議事を進行し、これで質疑を打ち切ることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（沼田邦彦） 異議なしと認めます。よって、これで質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま上程中の議案第1号から議案第8号までの平成31年度当初予算については、所管の常任委員会に付託したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（沼田邦彦） 異議なしと認めます。よって、議案第1号から議案第8号までの平成31年度那須烏山市一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、熊田診療所特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、介護保険特別会計予算、農業集落排水事業特別会計予算、下水道事業特別会計予算、水道事業会計予算の8議案については、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

○議長（沼田邦彦） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は3月13日午前10時に開きます。

本日はこれで散会いたします。大変お疲れさまでございました。

[午後 4時37分散会]